

平成30年度

事業報告（案）

社会福祉法人相楽福祉会

目次

平成30年度 事業報告（案）

相楽福祉会全体	1
総務部	6
健康管理部	10
相楽地域障害者生活支援センター	17
相楽作業所	23
相楽デイセンター	31
精華地域活動センター「心」	42
（クリエイティブスペース）ていすと	48
エコ・クリーン相楽	53
サービスセンター相楽	60
グループホーム サポートセンター「樹葉」	64

社会福祉法人相楽福祉会
平成30年度事業報告（案）

はじめに

相楽福祉会の長い歩みを振り返ってみても、30年度事業末は特別な意味になったと思う。地域他資源との連携方針が利用者にとっても相楽福祉会にとっても助けであり救いになったと自覚した事、地域ニーズとサービス提供ギャップを補完してくださる事業体が地元地域に進出し、利用者・事業者共々閉塞状況を打開する展望が見えているからであるが、法人経営陣には厳しい評価と総括が必要である。体力限界と言えはそれまでだが、事業継続性や復元力に疑問符！がついて将来を見越した市場原理的サービスの乗換えなのである。故に当法人としては選択を外された理由の一つとして、事業構造（加重サービス提供による負のスパイラル）に対する厳粛な反省に立ち、事業整理や統合＝S & Bを一層加速すべき時機の到来と考え、等身大サービス提供体制への移行を速やかに行い、得意領域に資源を選択集中し標準を超える魅力あるサービスを再創成する努力が急務である。

組織運営については透明・迅速・合理性を前提としたボトムアップ&トップダウンが理想であるし、その意味で着実な（報告会議から機能的提案会議への）前進があったと思う。無能なトップにも賢明で良心的選択が出来るよう、事業効率やリスク回避の最適条件を組織会議で水平建議・議論できねばならないが、この点も「お・ひ・た・し・報・連・相」視点で前向きに報告できるだろう。

「人権」は譲らぬ、互いに助け合って暮らしていく、利用者・職員共々教え合い学び合わねばならないと一心同体を掲げてきた暮らしの場や日中活動支援の在り方について、創設者約束断念の深い意味合いを絶えず問うて行かねばならない。来る者拒まず去る者追わずと唱えつつ職員に限界まで体力消耗させてしまい、結果として財務危機に繋がった点、繰り返し顧み反省し経営者責任を厳しく受け止めなければならない。

これからの時代、国が制度整備してきた安全安心標準サービスの上に（高齢利用者を含めた）自由選択・個別プログラムサービス提供ができるかが問われ、サービス自由化と定価撤廃・価格競争がこの業界でも激化すると考える必要がある。相楽福祉会は事業者選択・移動にかかわる相談支援をも明確にサービス向上と考え利用者利便性を高めて行くが、その上でこれまで長きにわたって培い育んできた関係性を有効活用し再び選ばれるサービス提供事業者として再生を目指すつもりである。

最後に提供サービスの質的向上実現の大前提である職員の働き方改革＝即ち労働環境・待遇・研修等改善の継続的実現に向けて、30年度決算における収支構造と事業形態等をよく吟味し、その上で前回理事会可決の31年度不確定歳入減想定済み謹厳予算下であっても財源確保に努め真剣な努力を行わねばならないと決意している。

I 運営指針

- 1 管理職及び各職員の役割を明確にするとともに、計画及び報告を確実にを行い、評価を加えることで、組織的運営を図っていく。
 - ・施設において職員一人一人の業務分担を明確化させ、運営会議・管理職会議・職員会議を軸に組織運営を行った。施設ごとに職員に対してヒアリングや定例会議において職員の声も運営に反映させた。今後も基本ではあるが報告・連絡・相談を丁寧に行い実直な運営を継続していく。
- 2 地域のニーズにこたえるため、新規通所事業所の整備を行い、新規利用者の受け入れをすすめる。
 - ・コンサルタント会社に依頼し、地主側に法人の要望に応じた新規建物を建てていただいた。その物件を賃貸する形で通所事業所「わーく相楽」を開設した。これまでの「クリエイティブスペースていすと」と「エコ・クリーン相楽」が新たな建物で活動をはじめ、利用者及び職員もゆったりと活動できるようになった。建物の面積が広がったことで、支援学校新卒生2名の受け入れもできた。今後も状況を見ながら利用者の受け入れを進め、地域のニーズにもこたえていきたい。
- 3 高齢化する利用者の安心安全のため、設備面の改善及び介護保険事業等の利用を継続的に行う。
 - ・今年度高齢の利用者1名が永眠された。医療機関も迅速に対応いただき、今後も継続した医療との連携も重要なキーワードであると再認識した。
 - ・作業所においては継続して高齢者を中心とした班の編成を行い、動きの大きい方たちとの交錯を少なくし、安心して過ごせる場を提供した。
 - ・介護事業所を並行して使うことが定着し、利用者にとって選択肢が広がり、日々の生活にメリハリをもって過ごされるようになった。
- 4 家族の高齢化に伴う暮らしの場の課題に対して、他事業所の資源の活用をすすめていく。
 - ・家族会から行政機関等への訴えもあり、次年度に他事業所が近隣で共同生活援助サービスを開始する計画が進み、数名の利用者が移行する準備が進んでいる。法人として利用者のスムーズな移行を支援していきたい。
 - ・法人で抱え込むのではなく、支援センターのマネジメントで、他事業所のヘルパーを活用した在宅生活のスタイルも進めた。
- 5 職員の給与等の処遇改善を行い、計画的にマンパワーの確保を行っていく。また、人権に配慮した適切な支援を行うために、人権研修及び障害の理解をさらに深める研修を行う。

- ・6年間3.0か月に凍結していた賞与を3.5か月分に戻した。そのことで職員の働くことの意欲を高めるための一助となった。
- ・宿泊及び夜勤手当や資格手当を増額し、業務内容に対する評価を行うと共に、スキルアップを推進することを目的に改善した。
- ・法人内で「人権研修」及び障害の理解を深める研修を実施し、自らの支援の在り方を振り返る機会を作った。
- ・マンパワー確保は困難な状況であるが、通常の募集だけでなくインターンシップや見学会、実習など積極的な取り組みを行った。今後も継続し人材確保をしめたい。

II 事業計画

1 組織的運営で事業を進める。

- ・今年度も会議丁寧に行うことで福祉会の意思決定や合意形成を全体のものとし、組織的運営を継続的に行った。それぞれが自覚して業務に向えるよう、管理職はもとより各職員の役割を明確にした。
- ・SNS等も活用し各事業所の出来事をスピーディーに報告、連絡、相談を行った。しかしながら各事業所での温度差もあり、今後も継続して徹底を図りたい。
- ・安心安全及び人権への配慮のために、個々のニーズに合わせた支援が行われているか、毎月の管理職会議で各事業所の報告をもとに議論し、施設間での共有を図った。

2 小規模事業所を一つの事業所「わーく相楽」として運営していく。

(従来のエコ・クリーン相楽とていすとの事業を新築の賃貸物件で行う。)

- ・支援学校卒業後進路先の一つとして、今年度2名の受け入れを行った。
- ・利用者の増員により財政の安定化を図ったが、家賃分の負担が増えたため、今後も状況を鑑みて新規利用者の受け入れを進めたい。
- ・2つの事業所を1か所にする事で、職員同士の連携を行う場面は増えたが、業務の効率化には至っていない。今後の課題となる。

3 通所施設の改善

- ・デイセンターのエアコン整備、新車輛のリースなどの設備・備品の整備を行った。また、大規模な修繕に向けて、具体的な修繕計画を業者も交えた相談を始めた。計画的修繕を今後始めていきたい。
- ・全車両ドライブレコーダーの導入を行い、送迎等の安心・安全の意識向上とリスク管理を高めた。
- ・法人内で抱え込むことなく、介護保険事業所との並行通所も継続的に進めた。法人ではできないリハビリ等も有効に活用でき、健康の改善につながった利用者もおられた。
- ・新規事業所とは別に「作業所」「心」においても支援学校新卒利用者の受け入れ

を行なった。

- ・支援学校生の見学や実習を受け入れ、次年度の新規受け入れにつながった。

4 暮らしの場の充実

- ・前記の通り、法人が暮らしの部分での事業展開をできない状況の中、親の会の働きかけにより他事業所がグループホーム設立の計画を進めた。利用者・家族にとって安心と選択肢の拡大に繋がっている。
- ・グループホームでの夜間支援スタッフの手当等の改善を行い、女性のスタッフの確保につながった。しかしながらマンパワー不足は大きな課題であり引き続き募集を行いスタッフの充実を進めていきたい。
- ・グループホームにおいても介護保険による入浴やマッサージ、移動支援を積極的に取り入れ、生活の質を豊かにした。
- ・スプリングラーの設置ができない既存のグループホーム1カ所を閉所し、居宅支援を利用した生活支援を実施した。今後、他事業所のヘルパーにも入っていただく方向で進んでいる部分もあり、継続して安定した生活が提供できるよう進めていきたい。

5 相談支援の充実

- ・業務内容とりわけ圏域の相談支援ネットワーク事業の負担が大きく、委託先の変更を諸官庁に申し入れた。1年後に他事業所にネットワーク事業を移行する方向になった。
- ・計画相談も増え、人材確保も進まず相談支援担当者の負担が大きい状況となった。次年度に職員の人材補充が重要な課題である。

6 財政の安定化

- ・新設した「わーく相楽」を含め、通所施設の利用者での受け入れを行い、新たな重度支援加算もあり安定した収入の確保につながった。しかしながら、マンパワー不足により収支バランスが取れている側面があり、今後も利用者拡大や夜間業務の夜勤化を進めていく必要がある。

7 人材確保と職員育成

- ・大学3回生を対象にしたインターンシップ、府社協主催のフェア及び京都市内での説明会を行うと共に、求人媒体を利用して人材確保を年間通して行った。次年度の新卒者採用に結び付けていきたい。
- ・年度途中に夜間スタッフの処遇を改善し、職員の意欲向上につながった。スタッフ確保については、年度後半に夜間スタッフの多数応募があった。
- ・外部研修への参加や資格取得への業務的配慮は継続して行った。法人主催の研修を実施し、職員自身が自らの支援を見直す機会を作った。

○法人研修

<新任研修>

- ・法人の歴史、支援の基本、障害者福祉施策 3日間（中途採用者のため3回実施）

<法人研修>

- ・「救急法講習」 精華町消防署 救急手当指導員3名
6月9日（土） かのき苑
- ・「身体拘束と虐待」 修光学園 施設長 森 亮氏
7月19日（木） 作業所
- ・「発達障害のある人への支援」 自閉症eサービス 松尾博久氏
9月21日（火） 作業所
- ・「摂食時の注意」 山城総合医療センター 言語聴覚士 草野由紀
11月22日（木） デイセンター

社会福祉法人相楽福祉会
平成30年度 総務部事業報告（案）

継続した運営基盤を構築するための財政安定化を掲げ、以下の事業を実施した。

＜計画に即した評価＞

1 継続的運営のための財政安定化

- ・事業所の統合、新規利用者の受け入れ等、効率的な事業展開や収入安定化を考慮した経営戦略を展開する初年度となる。円滑に事業展開できるよう、運営と財政のバックアップを担っていく。
- ・各施設の運営と財政状況について所属長と連絡を密に取りながら予算執行状況を常にチェックし、事業計画に基づいた財務の運営ができるよう努めていく。
- ・積立金について出来る限りの資産留保に努め、修繕や人件費等積立金の積立ができるようより一層努力する。

2つの事業所を統合した「わーく相楽」について、円滑に事業展開ができるよう会計や請求に関する手続きを計画的に進めていくことができた。

また、事業計画に基づく予算の執行を常に意識し、予算外の支出についてはそのほかの予算執行状況や削減に努め、各施設長とともに計画的に進めていくことができた。その結果、当期活動増減差額は24,520千円の黒字計上（昨年度は21,804千円の黒字）となった。

資産の留保については着実に増加してきているが、修繕や人件費等の資産留保には至っていない。今年度の予算執行状況を見ながら今後計画的に積立金の計上を進めていきたい。

2 財政状況の認識強化

- ・四半期ごとに管理職会議において財政状況を報告確認し、財政状況の認識を強化していく。

3か月ごとの四半期決算を作成し、運営会議、管理職会議にて報告を行った。

施設の老朽化に伴う施設改修を計画的に進めていくため、施設の設備の状況を常に意識して改修、改善ができるよう努めていきたい。

3 障害者総合福祉法の動向等への対応

- ・報酬単価等障害者総合支援法の改定の年であるため、変更点等への迅速な対応を行い、円滑な事務処理を行う。

通所施設における重度障害者支援加算が新設され、その変更申請等行政への書類作成及び提出を行い、請求業務を円滑に進めることができた。

4 理事会・評議員会の開催

平成30年度は、別添1のとおり理事会4回、評議員会1回を開催。事業報告、決算報告、事業計画、予算等各種審議を実施した。

5 平成29年度決算書の作成

平成29年度収支結果に基づき、社会福祉法人会計基準に基づく決算書資料を作成。各種財務諸表、添付資料を作成した。

<別添1>

平成30年度 理事会・評議員会の開催状況

○理事会

	開催日時	場所	議案内容	出席 理事	出席 監事
第 1 回	5月16日	精華町地域福祉 センターかしの き苑 A会議室	第1号議案 平成29年度事業報告(案) について 第2号議案 平成29年度決算報告(案) について 第3号議案 監事監査報告について 第4号議案 新役員候補者の推薦につい て 第5号議案 就業規則の改定について 第6号議案 定時評議員会における議案 内容について	5名	1名
第 2 回	8月24日	(書面による同 意の意思表示)	第1号議案 就業規則の改定について 第2号議案 給与規程の改定について	6名	0名
第 3 回	9月12日	(書面による同 意の意思表示)	第1号議案 給与規程の改定について	6名	0名
第 4 回	3月20日	精華町地域福祉 センターかしの き苑 C会議室	第1号議案 給与規程の改定について 第2号議案 職員及び嘱託職員の年俸額 について 第3号議案 平成30年度補正予算(案) について 第4号議案 平成31年度事業計画(案) について 第5号議案 平成31年度予算(案)に ついて 第6号議案 就業規則の改定について	6名	2名

○評議員会

	開催日時	場所	議案内容	出席 評議員
定 時	5月30日	精華町福祉センター かしのみ苑 D 会議室	第1号議案 監事の選任同意について 第2号議案 平成29年度事業報告 (案)について 第3号議案 平成29年度決算(案) について 第4号議案 監事監査報告について	7名

社会福祉法人相楽福祉会
平成30年度 健康管理部事業報告（案）

平成30年度は利用者健診や事業所支援全般に配慮が行き届いた年度となった。

今後も可能な限り医療・健康面の支援を継続して行きたい。今年度から、今までの通院記録をデータ化する事になった。また、職員に向けての医療研修については、前年度と同じ外部講師に依頼して嚥下機能の研修を実施した。

<計画に即した評価>

1 基本方針

(1) 通所事業所の給食を円滑に運営して行けるように努める。

給食委託先に食中毒三原則（手洗い・加熱・保冷）を厳守するよう要望した。
また、利用者の嗜好を含めた献立（管理栄養士作成）で安全な食材を使用した給食を提供するように努めた。

【実施内容】

給食提供日数／2箇所…①相楽作業所年間240日 ②相楽デイセンター年間240日
給食提供食数 ①相楽作業所 15,009食（心含む） ②相楽デイセンター 10,995食

【資料①給食提供食数】

給食1食をH28.9月～570円（職員・一般）で、利用者は食材費340円負担で提供した。

(2) 利用者・職員の医療を含む健康全般に配慮し、健康で過ごせるよう支援する。

看護師2名体制で連携を取りながら、日々の利用者の体調を把握する事ができた。
また、健診等の利用者支援について看護職を中心に実施する事ができた。

2 事業内容

(1) 給食関係

① 利用者・職員の意見を聞きながら栄養バランスのとれた献立になるよう努める。
また、個別対応食も含めて適量配膳かつ標準体重に近づけることを目標として、残債の少ない給食にする。

美味しい給食となるよう利用者の直接の意見を聞き、献立作成をした。日々の検食日誌を委託先にも閲覧してもらいながら、給食会議で利用者・職員の意見を検討した。

一人一人の栄養摂取目標量が違うので、健康も考慮した配膳になるように努めた。

② 毎月、納品食材の確認を行ない、委託会社と連携を取り、安全な食材を使用した美味しい給食を提供する。また、地元産の旬の食材(特産品を含む)を一部給食に取り入れて行く。

地元産の食材(特産品を含む)を、毎月1～4品目を給食に取り入れた。数量不足の場合や、価格面で地元産が高すぎる場合は、国産の旬の野菜・果物を購入した。

③ 衛生面では、食中毒を起こさないように充分注意する。

衛生面では、食中毒や感染症を拡大させないように次の点に留意した。

○アルコール手指消毒器や薬剤のスプレーによる消毒を実施した。

○調理実習・お菓子作りについて、マニュアルに従って実施し、ノロウイルス胃腸炎他の食中毒を防止した。

○手洗い場など施設内全般の消毒を実施した。また、手洗い用自動ディスペンサー（泡状石けん）を設置して、効率よく手洗いを進めた。

（２）医療・保健関係

①利用者の健康診断等の実施

- ・利用者健康診断を全員年1回実施する。
- ・歯科健診の実施・歯科衛生指導の実施
(京都府の事業として、決定された場合は実施する。)
- ・血圧・体重測定の実施

○利用者の健康診断は、協力医療機関である精華町国保病院で9月に実施、また、精華町在住で40歳以上利用者28名の方々には、特定健診・がん検診を推奨し受診して頂いた。(木津川市のグループホームの方々は、グループホーム職員中心で対応した。)

そのため、内容も充実し、費用面でも安く実施できた。【資料：表1】

○歯科健診と歯科指導（フォロー健診）については、平成30年度も京都府の特別の配慮により、実施された。相楽作業所・心の利用者を中心に受診した。【資料：表2】

○利用者の健康管理を目的とした体重（血圧）測定を実施した。【資料：表3】

2年前に車椅子用体重計を購入出来たので車椅子の利用者の方々も、およそ月1回継続して測定できた。

②職員の健康診断の実施

- ・ 職員の年 1 回の健康診断と、深夜勤務従事者は年 2 回の健康診断を実施する。
- ・ 各種ワクチン接種の実施

○職員は年 1 回の健康診断を必須としている。精華町国保病院か協会けんぽの指定病院のどちらかで受診した。なお、女性の乳がん・子宮がん検診を協会けんぽの指定する年度に（2 年に 1 回）実施とした。【資料：表 4】

○職員の深夜勤務従事者健診を実施した。（年 2 回・その内、協会けんぽ健診を受診した人は 1 回に含めている。）【資料：表 4】

○職員の健康診断結果のフォローとして、看護師から要医療・要精密検査の人には通院を促し、その経過を記録に取るようにした。

○感染症予防対策として B 肝ワクチン接種やインフルエンザワクチン接種を希望する職員に実施した。なお、インフルエンザワクチン接種については、精華町国保病院の医師に来てもらった為、利用者と職員が同時に接種する事ができた。・・・・【資料：表 5】
【資料：表 6】

③感染症の予防に努め、発生時は早期に対処し、感染拡大を防ぐよう努める。

○年間を通してノロウイルス・インフルエンザ両方の対策として、アルコールと消毒薬（ジェスパ）を併用した。（トイレ・食堂手洗い場他）

また、冬期はノロウイルス（感染性胃腸炎）の流行を防止するため、12 月から翌 3 月まで塩素系薬剤を追加使用し、トイレ掃除等で消毒を実施した。

○利用者の日々の体調管理の実施（体調不良時には早めに気づき、支援するようにした。）

④職員に向けて、健康・医療の情報を定期的に出して行く。

○定期的ではなかったが、職員からの質問に答えたい時や、医療部が職員へ周知したい事（健康・医療面や衛生面の情報）をプリントにして配布したり、回覧を実施した。

⑤その他（職員研修の実施について）

○全職員対象で、看護師が熱中症についての研修を実施した。また、去年に引き続き、外部講師による嚥下機能に関する研修も実施した。 【資料：表 7】

<資料>

【表１：利用者健康診断】※ガン検診も含む

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成３０年 ５月２５・２９・ ３０日／６月 １・４・６・８ 日（７日間）	特定健診※①・がん 検診に該当する利 用者（精華町の４０ 歳以上の希望する 利用者）	精華町役場 （精華町）	精華町 ２８人	・特定健診※①（問診・身 体計測・検尿・血圧測定・ 血液検査・心電図・診察） ・がん検診（肺がん・大腸 がん・前立腺がん検診）
平成３０年 １０月１６日	精華町の利用者 （４０歳以上の女 性で２年に１回）	学研都市病院	精華町 ３人	乳がん検診（マンモグラフ ィー） ※視触診なし
平成３０年 ８月 ２０・２８日	木津川市の利用者 （４０歳以上の女 性）	えくにクリニ ック	木津川市 ４人	子宮がん検診 （グループホーム支援）
平成３０年 ９月 ５・６・１１・ １３日	上記特定健診※① を受けた人以外の 利用者（がん検診済 みの人は胸部Ｘ線 検査以外を受診）	精華町 国保病院	９０人 （別に欠席 者及び通院 中の利用者 ５名）	血圧測定、身体測定、血液 検査、尿検査、胸部Ｘ線検 査、心電図検査（３５歳以 上）、内科診察
平成３０年 ９月５・６日	乳がん検診 女性 全員対象で希望者	精華町 国保病院	２５人	内科検診時に外科医師によ る触診を実施
平成３０年 ７月１０・１７ 日	木津川市の利用者 （４０歳以上）	学研奈良乳腺 クリニック	４人	乳がん検診 （触診・マンモグラフィー） （グループホーム支援）

【表２：歯科健診と歯科指導の実施】※相楽作業所で実施

日程	内容	実施人数	実施主体
平成３０年 １２月１１日	相楽作業所・心・エコ クリーン相楽・ていす との歯科健診	【作・２９人】【心８人】 【エコ・クリーン７人】 【ていすと１０人】	【健診】山城歯科医師会 ２名と京都府歯科医師会 歯科衛生士２名

平成31年 2月5日	同上の方々の歯磨き 指導（歯科衛生士）	【作・25人】【心8人】 【エコ・クリーン7人】 【ていすと11人】	【歯科指導】京都府歯科 医師会歯科衛生士2名
---------------	------------------------	--	---------------------------

【表3：体重測定（血圧測定等）の実施状況】

項目	対象者	実施回数	人数
体重測定	全利用者	年間11回 作業所・デイセンター ※健診時は省略	全員／他各事業所ごとに 測定した
体重測定 血圧測定	健診で体重・血圧の経過 観察が必要と思われる 利用者	週1回	対象の利用者 11名

【表4：職員健診実施状況】※週30時間以上勤務の職員対象

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成30年 9月 5・6日 11・13 日	協会けん ぽに該当 しない職 員	精 華 町 国保病院	14人 内1名協会 けんぽ該当	血圧測定、血液検査、尿検査、胸部X線検査、 心電図検査(35歳以上)、内科診察
年間を通し て予約	協会けん ぽ健診で 該当する 職員	指定病院 から選択	63人	基本健診（問診・身体計測・検尿・血圧測定・ 血液検査・心電図・レントゲン・視力・聴力 ・腹囲測定・診察）—※② 便潜血検査、胃 がん検診 乳がん検診（触診・マンモグラフィー） 40歳以上の女性全員（2年に1回） 子宮がん健診…20歳以上の女性（2年に1回）
9月・ 翌3月	深夜勤務 従事者健 診	精華町国 保病院	9人 7人	前記の※②と同じで、深夜勤務従事者は年2 回実施（協会けんぽ健診を受診する人は1回 に含む）9月健診時と翌3月に実施
不定期	深夜勤務 従事者健 診	精華町国 保病院	11月 2人 12月 2人	上記以外で2回実施

職員採用時	随時	精 華 町 国保病院	2 人	前記※②と同じ内容
-------	----	---------------	-----	-----------

【表 5：B 肝ワクチン接種の実施状況】

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成 30 年 4 月～ 翌 1 月 に実施	希望する職員	精華町 国保病院	右の 1 のみ 55 人（※） 2 から 5 まで通 して 12 人（年 間） 抗体検査 平成 31 年 1 月 10 人 （2 名退職）	1. B 肝抗体検査 4 月 2. ワクチン接種 1 回目、5 月 3. ワクチン接種 2 回目、6 月 4. ワクチン接種 3 回目、平成 30 年 12 月 5. 抗体検査、平成 31 年 1 月 6. 来年度の希望調査実施 2/19～ 7. 平成 29 年度ワクチン実施で抗体がつか なかった人に 4 回目追加接種 1 名（6 月） （※） 55 人中 5 人は、雇入れ検診（2 人）と夜勤者検診（3 人）で実施

【表 6：インフルエンザワクチンの接種】

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成 30 年 11 月 6 日 11 月 13 日	希望する利用者と職員	相楽作業所 相楽デイセンター	利用者 50 人 職員 63 人	精華町国保病院の医師が施設 に出張してのインフルエンザ ワクチン接種（1 回接種）

【表 7：職員研修】

実施日	対象者	場所	内容
平成 30 年 6 月 1 日	職員	相楽デイセンター	熱中症について 講師；看護師
平成 30 年 6 月 12 日 11 月 14 日	職員	相楽作業所	熱中症について 講師；看護師
平成 30 年 11 月 22 日	職員 23 名	相楽デイセンター	摂食時の注意（嚥下機能について） 講師：京都山城総合医療センター 言語聴覚士 草野由紀氏

※資料① 給食提供食数

平成30年度給食提供食数(単位:食) 【相 楽 作 業 所 分】

2018年度

相 楽 作 業 所 分	所属／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	相楽作業所 利用者	604	652	641	629	658	523	677	602	573	572	546	578	7,255
	心 利用者	135	138	140	137	153	128	140	121	120	114	127	125	1,578
	心 職員	59	56	59	56	65	56	60	56	56	52	56	54	685
	心合計	194	194	199	193	218	184	200	177	176	166	183	179	2,263
	ショートステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研修	0	0	2	14	8	11	7	10	3	1	9	1	66
	来客(ボラ)	4	7	1	2	1	2	3	1	4	3	3	3	34
	職員(相楽作業所)	446	458	461	435	464	373	472	453	429	419	437	474	5,321
	職員(その他の所属)	13	13	9	4	2	5	4	4	5	3	4	4	70
	総合計(食)	1,261	1,324	1,313	1,277	1,351	1,098	1,363	1,247	1,190	1,164	1,182	1,239	15,009
	給食提供日数(単位:日)	20	21	21	20	21	17	22	21	19	19	19	20	240

【相楽デイセンター分】

相 楽 デ イ セ ン タ ー 分	所属／日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	相楽デイセンター利用者	716	740	740	703	727	587	758	707	619	647	660	680	8,284
	ショートステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研修	0	0	0	1	0	12	2	0	1	5	34	2	57
	来客(ボラ)	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	9	1	22
	職員(相楽デイセンター)	202	197	171	169	183	140	159	179	179	169	178	168	2,094
	職員(その他の所属)	34	35	37	44	47	41	58	52	48	44	48	50	538
	総合計(食)	953	973	949	919	959	781	978	939	848	866	929	901	10,995
	給食提供日数(単位:日)	20	21	21	20	21	17	22	21	19	19	19	20	240

社会福祉法人相楽福祉会
平成30年度 相楽地域障害者生活支援センター事業報告案

1. 基本方針

- (1) 障害のある方の地域における日常生活、地域生活を支援する。
- (2) 相談者の状況や障害特性に応じた適切な情報提供、サービス調整を行えるよう関係機関との連携を図る。
- (3) 多岐にわたる相談内容に対応できるよう、相談支援専門員としての資質向上と専門性を高める。

精華町から相談支援事業の委託を受け、精華町在住障害児者への相談対応を行った。

特定相談支援事業、障害児相談支援事業において、サービス等利用計画の作成・モニタリング業務を実施した。

京都府相談支援体制整備事業の補助を受け、圏域内の連携を図るとともに山城南圏域障害者自立支援協議会の運営を行った。

2. 事業内容

(1) 精華町障害者相談支援事業の実施

① 相談支援事業の実施

- ・地域生活に関する相談への対応、サービス利用の調整を行う。
- ・精華町障害者虐待防止センター機能のうち、通報受理および相談等の受付対応を行う。

平成30年度相談件数・内容等別紙（相談件数としては精華町外も含む）
相談者実人数は障害児、障害者とも合わせ 527 人（平成29年度 465 人）
相談方法として多いのは電話 805 件、訪問 344 件となっている。
相談内容としては、福祉サービス利用に関することが 713 件、障害および病状理解について 441 件、健康・医療について 195 件となっている。

② 精華町地域障害者自立支援協議会の運営

協議会全体の活動および専門部会の活動が円滑に進むよう、事務局機能を担う。

全体会

開催日	内容	参加人数
3月1日	部会活動報告 精華町障害者基本計画について	10名

専門部会

部会名	内容	開催回数
住民参加部会	精華町防災訓練について 防災について勉強会 合理的配慮に係る職員向けアンケートについて	7回
権利擁護部会	権利擁護（成年後見など）に関する検討 精華町成年後見センターについて	4回
発達支援部会	児童発達支援事業の利用について 未就学児への支援について	1回

③障害支援区分認定調査の実施

- ・精華町からの委託により、精華町在住者の認定調査を実施する。

障害支援区分認定調査業務について木津川市から調査委託もあり受託した。

認定調査件数：精華町 17 件、木津川市 48 件

(2) 計画相談支援事業・障害児相談支援事業の実施

- ① 個々に応じたサービス調整を行い、サービス等利用計画の作成を行う。
- ② モニタリングにおいて、サービス利用が円滑に進んでいるか、サービス内容は適切か、変更の必要性がないかなど確認を行う。
ただし、平成 29 年度の状況から計画作成件数が 360 件を超えており、モニタリング実施対応ができていない現状があり、頻度については行政と相談していく。
- ③ 計画作成件数の増大に対応できていない状況を改善するため、他事業所への協力を検討していく。

- ・特定相談支援事業による障害者のサービス等利用計画作成件数 284 件
 - ・障害児相談支援事業による障害児のサービス等利用計画作成件数 106 件
- 合計 390 件

精華町、木津川市、宇治市、奈良市を事業実施地域とした。

平成 30 年度は単純計算すると相談支援専門員一人当たり約 130 名の計画作成を行ったことになる。計画作成に追われ、適切なサービス調整等を行うことができなかった。相談者からのサービス利用の希望のみを聞き、計画作成せざるを得ない状況になった。

モニタリングも、個別面談や事業所訪問をすることができず電話で状況確認するのみとなってしまった。行政から決められたモニタリング回数を行うことができず、平成 31 年度に向けて改善方法も見つからないためこのままの現状で

継続すると思われる。

(3) 京都府障害者相談支援ネットワーク事業における総合相談支援体制整備事業の実施（山城南圏域障害者総合相談支援センターの運営）

- ① ゼネラルケアマネジャー(専門相談員)を配置し、山城南圏域内の相談支援機関、事業所等への指導・助言を行う。
- ② 困難ケースなどの個別支援会議の開催を支援する。
- ③ 山城南保健所と連携をとり、山城南圏域障害者自立支援協議会の運営を行う。
- ④ 市町村地域自立支援協議会の活動について、協力・助言を行う。

山城南障害者自立支援協議会活動状況

全体会

開催日	内容	参加者数
3月12日	市町村協議会報告 平成30年度部会活動報告および31年度計画について	24名

専門部会

部会名	内容	開催回数
発達支援部会	発達障害者支援ファイル普及について ペアレントトレーニングの普及・啓発について	部会12回 研修会1回 先進地視察1回 幹事会1回 支援ファイル作業部会1回 親支援部会4回
就労支援部会	圏域内の就労支援状況について 障害のある方の働く場のつどい 障がい者が働く場の見学会	部会2回 働く場の集い2回 見学会1回

地域生活支援部 会	地域生活支援拠点等についての検討 児童発達支援センターの検討	部会 2 回 コア会議 4 回 プロジェクトチーム 会議 7 回 見学会 3 回 研修会 1 回
医療的ケア部会	医療的ケアを必要とする人たちの在宅 生活支援について	勉強会 3 回

その他会議 木津川市障害者自立支援協議会への参加 3 回

3. その他

計画相談の対応に迫われ、丁寧な相談対応ができなくなっている現状がある。京都府から受託している事業を継続受託するのかなど、業務内容について見直しを検討したが京都府との話は成立せず。

平成 30 年度は、京都府の補助金事業から山城南保健所との委託事業に変更になり、平成 31 年度も同様になる。

平成 30 年度補助金 400 万円だったが、平成 31 年度は 300 万円に減となる。

<資料>

会議等への参加

日程	会議名	会場	参加
4/24	こころの健康推進員連絡会議	山城南保健所	1
5/30	高次脳機能障害支援ネットワーク会議	山城北保健所	1
11/15	京都府総合相談支援体制整備事業	京都府庁	1
9/13	障害者職業訓練 休職サービス科	木津川市西部交流 会館	1
10/4 11/29 1/29	精華絆ネットワーク研修会	精華町役場	1
10/27 3/13	山城南地域ネットワーク連絡会議	山城南保健所	1
2/10	みんなで助け合おう！！『災害に備えて ～自助・共助・公助～』	地域福祉センター かしのき苑	1
2/13	南山城支援学校高等部 3 年生学習会	南山城支援学校	1

2/15	南山城支援学校高等部3年生保護者進路説明会	南山城支援学校	1
3/10	絆ネット構築支援事業「精華町の『ほっとけない』をみんなで考える会議」	けいはんなプラザ	1
3/12	精神保健福祉研修・アウトリーチ支援で大切な視点」	京都府精神保健福祉総合センター	1

相楽地域障害者生活支援センター 平成30年度 相談件数

年齢・障害別(実人数)

<18歳未満>

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病等	その他	合計
男性	4	0	39	0	38	0	0	1	82
女性	0	0	24	0	18	0	0	4	46
合計	4	0	63	0	56	0	0	5	128

<18歳以上>

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病等	その他	合計
男性	40	3	102	59	21	9	4	0	238
女性	21	6	76	43	11	1	1	2	161
合計	61	9	178	102	32	10	5	2	399

市町村別相談方法(延人数)

<18歳未満>

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会	関係機関	文書	FAX	その他	合計
奈良市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市川市	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
精華町	18	87	27	143	0	12	38	0	0	1	326
木津川市	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
南山城村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	18	88	27	147	0	12	38	0	0	1	331

<18歳以上>

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会	関係機関	文書	FAX	その他	合計
奈良市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
市川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精華町	253	197	99	517	9	29	140	0	0	10	1254
木津川市	68	42	27	136	18	8	9	2	0	2	312
南山城村	3	0	1	5	0	0	0	0	0	0	9
宇治市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	326	239	127	658	27	37	149	2	0	12	1577

相談内容(延人数)

<18歳未満>

	福祉サービ	障害病状理	健康・医療	不安・情緒	保育・教育	家族・人間	家計・経済	生活技術	就労支援	社会参加	権利擁護	その他	合計
奈良市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市川市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
精華町	218	81	6	0	13	0	0	0	0	1	3	5	327
木津川市	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
南山城村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	219	83	6	0	13	0	0	0	0	1	3	5	330

<18歳以上>

	福祉サービ	障害病状理	健康・医療	不安・情緒	保育・教育	家族・人間	家計・経済	生活技術	就労支援	社会参加	権利擁護	その他	合計
奈良市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
市川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精華町	447	333	136	67	2	30	32	110	20	15	11	54	1257
木津川市	37	25	53	24	0	11	26	55	29	0	6	48	314
南山城村	8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	9
宇治市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	494	358	189	91	2	41	58	166	49	15	17	102	1582

社会福法人相楽福祉会
平成30年度 相楽作業所事業報告（案）

個々の支援計画に基づき「働く」場の提供を行うと共に、余暇活動や絵画・書道等の文化的活動や3B体操や散歩など健康維持のプログラムの提供も行った。また、クラブ活動や旅行等希望に応じて計画実施した。

作業所では高齢化も進んでおり、30年度も引き続き高齢者対応のグループを編成し、ゆったりとした活動の場を設定し安心・安全面の確保につなげた。

今年度より作業所においても支援学校卒業生の受け入れをはじめ、施設に新たな風が吹き込み活性化につながったと思われる。今後も可能な部分で受け入れを継続していきたい。

設備に関しては、感染症のリスクを少なくするため、食堂手洗い場の蛇口に自動水栓に交換した。また、2階の和式トイレの洋式化や食堂の天窓部分の遮光工事等、細かな部分ではあるが現場職員の声を反映して修繕を行った。

<計画に即した評価>

基本方針

- (1) 一人ひとりのニーズに基づき個別支援計画を作成し、他機関との連携を深め、随時見直しを加えながら日中支援を行う。

昨年度末の利用者からの聞き取りに基づき個別支援計画を作成し、各班の職員間で共有して支援を行った。10月にモニタリングを実施し、更に年度末には年間の支援内容の評価を行った。また、必要に応じて相談支援センター及びグループホーム、介護保険事業所などの福祉機関だけでなく、病院や学校機関とも積極的に連携をとった。

- (2) 加齢に伴い配慮が必要となる方へ、安心安全な環境を整え、利用者の状況に合わせたグループ編成を進める。

今年度も加齢に伴い身体的配慮が必要になる方々の班を作り、安心安全の確保を図った。安全の確保はできたものの、体重が増加した利用者もおられ、今後は体を動かす機会を積極的に取り入れる重要性を感じた。

- (3) 社会的ニーズに応え、可能な部分での新規の利用者を受け入れる。

今年度1名の利用者の受け入れを行い、施設の活性化の一助につながったと感じた。支援学校との連携もこれまでより濃密になり、職員も刺激を受け学ぶ機会が増えたと思われる。

2 事業内容

(1) 障害特性と利用者の希望を加味し、6つの班編成を行う。生産活動を中心に、個々の年齢や体力の状況に配慮して「生活介護」の事業を実施する。

- ・他機関（介護保険、サービス利用援助事業、移動支援）を利用する方も増え始め、意識的に連携を丁寧に行っていく。
- ・作業内容については、生活の質を高める媒体としての位置づけ、試行的に園芸や新規下請け作業も取り入れていく。
- ・新規利用者のアセスメントを丁寧に行い、支援学校からスムーズに移行していく。
- ・納品、資材購入など社会との接点も大切に取り組む。

作業班は利用者個々の希望と障害特性や体力に配慮し、6つの班に分かれて実施した。作業内容では野菜づくりやドライフラワーなども増え、新たな経験の場となった。定期的に搬入や搬出の機会を設け、社会との接点が増え、「働く」ことへの意欲にもつながった。

介護事業所との並行利用やサービス利用援助事業も定着し、他機関との連携は不可欠になってきている。

(2) 社会参加や楽しみにつながるプログラムの提供を行う

- ・継続して絵画や書道など作業以外の楽しみの場を提供する。
- ・日帰り及び宿泊旅行を小グループで実施する。
- ・希望者に応じて、クラブ活動や余暇活動の場を設け、経験の幅を広げる。

今年度も週1回の絵画や月1回の書道プログラム提供を行なった。絵画においては、「とっておきの芸術祭」の入賞や「共生の芸術祭」へ出展と、利用者や家族及び支援者にとって大きな励みとなった。

今年度の旅行は希望に応じて、1泊旅行を4グループ、日帰り旅行を6グループに分けて、少人数のグループ編成で実施した。そのため、個々のペースに合わせたスケジュールで、楽しく安全に実施できた。

クラブ活動において利用者からの聞き取りだけでなく、職員側からも提案し、ゲームクラブや散歩クラブなど新たな経験の場が広がった。

(3) 個別支援計画に基づき支援を行う

- ・本人のニーズに基づき支援計画を作成し、日中の活動班でのケース会議も行い、年度の間で見直しを行う。
- ・支援内容の蓄積のため、個々の引継ぎ票（支援マニュアル）の修正を年度末に行う。

個々のニーズに基づいた支援計画に沿って年間の支援を行った。モニタリングと年度末に年間の評価も行い、次年度への引継ぎ票も修正を加えた。

(4) 職員間の情報共有、連絡、連携を確実にし安定した業務を行う。

- ・職員会議や朝の打ち合わせで意識的に意見交換し、情報共有を行う。
- ・研修への積極的参加と研修報告による共有を行う。

送迎や日中一時支援のため、夕方のミーティングへの参加が少なく、朝のミーティングや日誌に目を通すことで補った。研修後のフィードバックは不十分で、今後の課題として行っていく必要がある。

(5) 安心・安全で快適な環境を整備していく

- ・感染予防のため、食堂の水道蛇口を自動水栓タイプに交換する。
- ・老朽化し始めている本体部分の一部修繕を行う。

自動水栓やトイレの洋式化等、必要に応じて修繕を行った。今後、大規模修繕に向けて、長期の計画を立てて進めていきたい。

<資料>

1 利用者の状況（平成 31 年 3 月 31 日現在）

1) 利用者数

相楽作業所 36 名（男 25 名・女 11 名）

2) その他（平成 31 年 3 月 31 日現在）

- ・平均年齢 約 47.3 歳
- ・平均在籍年数 約 22 年 4 カ月
- ・平均障害支援区分 5.3

2 活動内容（平成 30 年度実績）

1) 作業グループ構成（ ）内はスタッフ数

陶芸 A	陶芸 B	EM	創作	箱	デイサービス
6 名(4)	6 名(3)	6 名(2)	6 名(6)	10 名(5)	3 名(3)

2) クラブ活動

各クラブは12月までにほぼ月1回平日に実施した。

カラオケ		ボウリング		調理			映画	写真	ゲーム
① 班	② 班	① 班	② 班	① 班	② 班	③ 班			
3名	2名	4名	3名	4名	4名	4名	3名	2名	3名

3) 旅行

今年度は一泊旅行と日帰り旅行を計画・実施した。

○一泊旅行

白浜水族館・アドベンチャーワールド	USA・海遊館	名古屋港水族館・リニア鉄道館	鳥羽水族館・鳥羽湾巡り
2名 (2)	3名 (3)	4名 (3)	2名 (2)

○日帰り旅行

京都水族館	ミカン狩り	奈良健康ランド	トロッコ	グルメ「寿司」	京都鉄道博物館
3名 (2)	1名 (2)	2名 (2)	2名 (2)	1名 (1)	3名 (3)

4) 行事等

日 程	行事名・内容	参加利用者数 () 内はスタッフ数	備 考
4/11 (水)	開所年記念写真展示	利用者全員	食堂にて実施
5/21 (月)	ツアーオブジャパーン見学	希望者	作業所 前
5/27 (日)	精華町ふれあいまつり	3名 (2)	かしのき苑
5/29 (火)	特定健診・がん検診 (40歳以上)	3名	精華町役場
5/30 (水)	がん検診 (40歳以上)	1名	精華町役場
6/6 (水)	役場検診	3名	精華町役場
6/7 (木)	行者まつり (販売)	5名 (4)	浄瑠璃寺
6/8 (金)	役場検診	1名	精華町役場
9/6 (木)	利用者検診 (女性)	18名	精華病院
9/13 (木)	利用者検診 (女性)	9名	精華病院
9/21 (金)	日帰り旅行	3名 (2)	京都水族館
9/27~28	一泊旅行	2名 (2)	アドベンチャーワールド

10/11～12	一泊旅行	3名(3)	USJ・海遊館
10/18(木)	日帰り旅行	1名(2)	ミカン狩り
10/26(金)	日帰り旅行	3名(3)	嵐山トロッコ
10/28(日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	17名(13)	むくのきセンター
11/1～2	一泊旅行	4名(3)	名古屋港水族館
11/6(火)	インフルエンザ予防接種	23名	所内
11/8(木)	日帰り旅行	1名(1)	木津川寿司
11/9(金)	日帰り旅行	2名(2)	嵐山トロッコ
11/14～15	一泊旅行	2名(2)	鳥羽水族館
11/18(日)	精華まつり(販売)	希望者	けいはんな公園
11/22～24	浄瑠璃寺秋の販売	6名(4)	浄瑠璃寺
11/30(金)	日帰り旅行	3名(3)	京都鉄道博物館
12/11(火)	歯科健診	全員	作業所内
12/25(火)	避難訓練	全員	作業所内
1/18(金)	新年会	全員	作業所内
2/5(火)	歯科指導	全員	作業所内
3/6(水)	避難訓練	全員	作業所内
3/29(金)	お別れ会	全員	作業所内

5) その他

調理、お菓子作り、散歩、カラオケ、各班で実施

絵画(毎週水曜日)、書道(第2火曜日の午前)、医療マッサージ(週1
回木曜日の午後) 3B体操－希望者が参加

3 研修・出張(主だったもの)

日 程	研修名・内容	会 場	参加数
4/12(木)	京都知福協役員会	京都福祉会館	1名
4/19(木)	ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	1名
4/23(月)	町福祉功労者選考委員会	精華町役場	1名
5/9(水)	グローバルネット会議	精華町役場	1名
5/15(火)	ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	1名
5/16(水)	生ごみ堆肥化推進委員会総会	精華町役場	1名
5/23(水)	町平和祭典実行委員会	精華町役場	1名
5/27(日)	ふれあいまつり(要員)	かしのき苑	3名
5/30(水)	ふれあいコンサート実行委員会	精華町役場	1名
5/31(木)	町福祉計画業者プロポーザル	精華町役場	1名

6/ 8 (金)	府集団指導	文化パーク城陽	2 名
6/ 9 (土)	法人研修 (救急法)	かしのき苑	10 名
6/12 (火)	熱中症について (法人研修)	所内	全員
6/17 (日)	栄養士研修	京都府立大学	1 名
6/20 (水)	町自立支援協議会権利擁護部会	精華町役場	1 名
6/21 (木)	町人権啓発委員会	町人権センター	1 名
6/24 (日)	精神保健福祉施設協議会	京都府庁	1 名
6/27 (水)	町平和祭典実行委員会	精華町役場	1 名
7/ 3 (火)	相談支援現任研修	京都テルサ	1 名
7/ 4 (水)	京都知福協研修委員会	福祉会館	1 名
7/ 2・5	行動障害支援者養成研修	京都テルサ	1 名
7/19 (木)	ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	6 名
〃	法人研修 (人権について)	作業所	1 名
7/23 (月)	町障害者基本計画策定委員会	町役場	1 名
7/26 (日)	ふれあいのつどい実行委員会	かしのき苑	1 名
7/30 (月)	成年後見センター設置会議	精華町役場	1 名
8/ 2 (木)	ほっとはーと交流会 (要員)	かしのき苑	1 名
8/ 3 (金)	町平和祭典実行委員会	精華町役場	1 名
8/ 8 (水)	町人権擁護委員会	精華町役場	1 名
8/8～9	相談支援従現任研修	京都テルサ	1 名
8/17 (金)	ふれあいのつどい実行委員会	精華町役場	1 名
8/28 (火)	保健所講習会	山城南保健所	1 名
9/ 1 (土)	いづみ福祉会 30 周年記念	いづみ福祉会	1 名
9/12 (水)	ふれあいのつどい実行委員会	かしのき苑	1 名
9/19 (水)	京都知福協 研修委員会	福祉会館	1 名
9/21 (火)	法人研修 (自閉症スペクトラム)	法人内	8 名
9/26 (木)	栄養士研修	キャンパスプラザ	1 名
9/27 (金)	町人権啓発委員会	精華町役場	1 名
10/15 (月)	町障害者基本計画策定委員会	精華町役場	1 名
10/17 (水)	ふれあいのつどい実行委員会	かしのき苑	1 名
10/18 (木)	ふれあいコンサート実行委員会	けいはんなプラザ	1 名
10/25 (木)	ふれあいのつどい準備	かしのき苑	1 名
11/ 4 (日)	ふれあいコンサート	けいはんなプラザ	1 名
11/ 5 (月)	成年後見センター設置会議	精華町役場	1 名
11/10 (土)	就職フェア	文化パーク城陽	1 名
11/16 (金)	精華町合同就職説明会	精華町役場	1 名

11/18 (日)	せいかまつり	けいはんな記念公園	4 名
11/22 (木)	法人研修 (食事介助)	デイセンター	7 名
11/27 (火)	町障害者基本計画策定委員会	精華町役場	1 名
12/ 5 (水)	税理士会計診断 (運営会議)	法人内	
12/ 7 (金)	自立支援協議会権利擁護部会	精華町役場	1 名
12/14 (金)	福祉避難所事前研修会	山城南保健所	1 名
12/25 (火)	ふれあいのつどい実行委員会	精華町役場	1 名
1/ 9 (火)	就職フェア打ち合わせ	キャンパスプラザ	1 名
1/11 (金)	町成年後見センター設置会議	精華町役場	1 名
1/17 (木)	京都知福協研修 (BCP)	福祉会館	1 名
1/21 (月)	町障害者基本計画策定委員会	精華町役場	1 名
1/27 (日)	栄養士研修		1 名
2/ 1～2	佛子園見学	西園寺 シェア金沢等	1 名
2/ 7 (木)	京都知福協研修 (意思決定支援)	福祉会館	1 名
2/10 (日)	自立支援協議会主催フォーラム	かしのき苑	1 名
2/22 (金)	自立支援協議会権利擁護部会	精華町役場	1 名
2/24 (日)	栄養士研修	京都女子大	1 名
3/ 1 (金)	自立支援協議会全体会	精華町役場	1 名
3/13 (水)	法人新任研修	法人内	3 名
3/22 (金)	町人権啓発推進委員会	精華町役場	1 名
3/25 (月)	せいかまつり実行委員会	精華町役場	1 名
〃	町障害者基本計画策定委員会	精華町役場	1 名
3/28 (木)	町地域福祉計画推進計画	精華町役場	1 名

4 見学・実習

① 見学・来訪 (合計 128 件)

行政関係 9 件	施設 15 件
学校関係 17 件	企業 33 件
親の会関係 8 件	地域団体 9 件
施設見学 (個人) 18 件	その他 19 件

② 実習 (合計 20 人)

介護等体験 5 名	社会福祉士 3 名	介護実習 4 名
中学生体験 3 名	高校生体験 3 名	インターンシップ 2 名

5 所内事故・苦情

内 容			件 数
事 故 等 苦 情	怪我	外出時利用者がドアに手をかけているにもかかわらず、職員がスライドドアを閉め、手を挟んでしまう。(傷や腫れには至らない)	1 件
	情報・連絡	職員同士の情報共有不十分で、フッ素治療後 1 時間経過していないのに飲食を提供してしまう。	2 件
		個別支援計画を取り違えて渡してしまう。	
	車両	車を U ターンさせた際外壁に左バンパーをこする。	3 件
		直進中に脇道から出てきた車が接触してくる。	
		運転ミスで縁石にホイールをこする。	

6 その他

日 程	内 容	備 考
4/21 (土)	1 階食堂自動水栓交換	1 階食堂
5/ 8 (火)	法人監事監査 (事業)	乗光監事
5/ 8 (火)	法人監事監査 (会計)	平松監事
5/16 (水)	法人理事会	かしのき苑
5/24 (木)	相楽親の会総会	かしのき苑
5/30 (水)	評議委員会	デイセンター
8/ 5 (日)	EM 班修繕	キール (株)
8/18 (木)	2 階トイレ前エアコン工事	モリタ電化
12/24~26	食堂天窗遮断工事	ビティー
10/28 (日)	ワックスがけ	フジハラ美装
12/15 (土)	厨房給湯器取付工事	喜多商店
12/25 (火)	避難訓練	所内
12/28 (金)	浄瑠璃寺餅つき	所内 1 階
2/ 9~10	2 階女子洋式トイレ交換	キール (株)
3/ 6 (水)	避難訓練	所内
3/10 (日)	貯水槽清掃	オリックスファシリティーズ

社会福祉法人相楽福祉会
平成30年度 相楽デイセンター事業報告（案）

今年度も職員の退職等に伴う配置不足に翻弄された1年であった。また業務中に職員が倒れ亡くなるという不測の事態も発生した。年度当初から比べ一時期は4名の職員配置が減ったこともあり、職員配置に苦慮し現場に係る負担も大きかった。年度途中に採用や異動により対応を行ったが、今後も体制への不安が続くため、計画的な採用が必要であると思われる。しかしながら福祉現場への採用が業界全般においても進んでいないことを考えると今後も不安を払しょくできない。ただ業務中に倒れ亡くなるという事態も、利用者への影響が最低限で済ませられ精神面等の変化も見られなかったのは幸いだった。また利用者も1名亡くなり影響のある利用者への対応も行った。

施設の老朽化に対しては、大規模改修に向けた見積もりを行ったが高額であるため、屋根や外壁の改修を計画するにとどまった。新年度には速やかに行う予定である。

「感染」に関しては今年度も12月から3月まで検温を実施した。インフルエンザに利用者2名職員1名感染したが、拡大することは防げた。

事故等は増加した。特に怪我が前年に比べ増えた。高齢化による体力面の低下もみられるので、普段の支援を見直し事故の減少を目指したい。また苦情は減少したが、家族の状況の変化等から今後もあると思うので、信頼を損なうことなく丁寧な支援や対応を心がけたい。

<計画に即した評価>

1 基本方針

（1）一人ひとりのニーズに基づき個別支援計画を作成し、日中活動支援を行う。

アセスメントや家庭への聞き取りを行い、年度初めと年度後半に個別支援計画を策定した。今年度は聞き取り以外に希望利用者のみ面談を行い、より詳しく状況等を聞き取った。普段聞けない状況や家族の状態等が確認出来た。

（2）利用者の人権に配慮し、支援の向上を目指す。

支援の振り返りチェックシートは実施できなかった。言葉遣いや支援に関しては、改善されない場面も見られ、随時指摘が必要と感じ文書による回覧等を行った。

（3）安心・安全な支援を行い、プログラムの充実に努める。

怪我等事故防止に努め、反省会でのヒヤリハットも行った。生産活動以外に調理や外出、旅行やクラブなど等の楽しみのプログラムを実施した。

2 事業内容

- (1) 指定障害福祉サービス「生活介護」を運営する
- ・個別支援計画に基づき、生産活動や個別プログラムを実施する。
 - ・加齢や安全に配慮しプログラムを実施するとともに、計画的に進めていく。
 - ・「工賃」について、収益等の変動に合わせて見直していく。

個別支援計画に基づきプログラムを実施した。

クラブや個別プログラムは昨年度の反省を生かし、スケジュールを予め決め計画的に実施した。ただ年度末の駆け込み的なプログラムの実施があり、今後は改善の必要がある。旅行は昨年度日帰りにおいて予算を増やした「豪華パターン」を継続した。ただ普段通所されていない方の参加希望もあり、安全に実施するため参加等の検討が必要である。

転倒による怪我や、発熱、てんかん発作など体調変化も見られた。プログラムの充実とともに年齢や状態等に配慮した内容の見直しも感じた。

「工賃」に関してはデイセンター会議で検討した。ここ数年赤字になっており現状以上の売り上げが難しいとの判断から新年度からは工賃の改定を決定した。なおパン班に関しては作業内容や作業量から考慮し、パン班独自の手当てを考えた。新年度から工賃改定を行う。

- (2) 支援の質の向上
- ・「人権」を尊重した支援を行う。
 - ・利用者や家族の心身の変化に対応し、丁寧な説明のもとに支援を行う。
 - ・常に自身の支援を検証するために、相互指摘できる体制を継続する。
 - ・日々の情報共有を行い、各種会議を必要に応じ開催する。
 - ・介助方法や業務内容を定期的に見直し職員間で共有する。
 - ・法人内部および外部研修を活用し、資質の向上に努める。

デイセンター会議は原則月1回実施した（7・10・11月は実施せず）。日々の打ち合わせ等でも支援の中身を振り返ったが、相互指摘までは至らなかった。支援を常にチェックできるよう引き続き行っていきたい。

研修は法人内外の研修に参加した。（法人内研修5回に37名、有償運送研修に2名、他外部12研修に12名）職員体制の不備もあり、例年に比べ外部研修は少なかった。（強度行動障害研修を優先した）

（３）安心安全の確保

- ・「安心・安全の確保」については最重要課題として継続する。
- ・「服薬」や「運転」に関して事故防止を継続する。
- ・インフルエンザ等の感染症に対して、予防の徹底と感染拡大を防ぐため、検温等の対応を行い健康管理に努める。
- ・開所から２０年が過ぎ、老朽化した設備に関して、大型改修工事を計画する。
- ・送迎ルートの見直しを行い、安全な運転業務を行い安全意識の向上に努める。
- ・年２回防災訓練を継続し、必要な防災用具等の充実も計画する。

事故数は昨年に比べて総数では減少したが、項目では増加したものもあった。個人情報や服薬ミスなどは今年度もあったので、確実な点検や確認をより進めていきたい。

インフルエンザ等「感染」予防は、１２月～３月の間１日２回の検温を実施した。今年度は昨年同様検温アベレージを基に、健康管理を行った。感染数はインフルエンザは利用者２名であった。今後も感染防止を継続していきたい。

防災訓練は２回実施した。２回目の時期が年度末だったので、来年度は計画的に実施したい。

（４）事業所機能の充実

- ・設備、車両等の改修を計画的に実施する。
- ・大型改修工事を計画し、順次老朽化した箇所から進めていく。
- ・職務軽減、業務の効率化を継続して検討、実施する。
- ・他事業所、行政、関係機関と連携し業務を行う。

昨年に続きエアコンの改修工事（食堂）を行った。来年度で一応終了の予定である。ＬＥＤ工事等も考えていきたい。施設の老朽化から大規模改修工事の見積もりを行った。予算規模に照らし合わせて来年度は屋根と外壁の改修工事を行う予定。

<資料>

１ 利用者の状況（平成３１年３月３１日現在）

- ・利用者数：４２名（男２３名、女１９名）
- ・平均年齢：約 ４１．５ 歳
- ・平均在籍年数：約 ２０ 年７か月
- ・平均障害支援区分：５．０

2 活動内容

(1) 作業グループ

例年同様の構成で活動した。生産活動グループは、前年度比で売り上げは減少した。

パン・喫茶	紙漉	染織	花工芸	デイサービス
11名(6)	8名(4)	9名(4)	9名(4)	5名(5)

()内はスタッフ数

(2) クラブ活動

各クラブ平日に実施。費用は事業所負担とした。

年度途中担当職員が欠員になったため変更を行った。また退所のため利用者が1名減少した。

クラブ名	カラオケ			
	1 A	1 B	1 C	2
利用者数	5名	6名	5名	7名
スタッフ数	3名	4名	3名	3名

クラブ名	プール		調理		室内レク
	A	B	A	B	
利用者数	3名	2名	3名	3名	4名
スタッフ数	3名	2名	2名	2名	3名

(3) 旅行

今年度は日帰り6グループと、宿泊4グループを実施した。宿泊は後半グループを実施した。

日帰り

旅行名	吉本新喜劇	高の原イオン	ニフレル	ひらかたパーク	天王寺動物園	京都市水族館
参加者数	2名	1名	5名	2名	5名	4名

宿泊

旅行名	姫路セントラルパーク	レゴランド・鉄道博物館	城崎マリンワールド	ナガシマスパーランド
参加者数	2名	6名	3名	3名

(4) 行事等

日 程	行事名・内容	参加利用者数 ()は スタッフ数	場 所
4 / 7 (土)	木津川市桜まつり	24名 (14)	木津川市 中央体育館

日 程	行事名・内容	参加利用者数 () は スタッフ数	場 所
5 / 3 1 (木) ～ 6 / 1 (金)	宿泊旅行	2 名 (1)	姫路セントラル パーク
6 / 2 5 (月)	オムロン交流会	24 名 (14) オムロン社員 15 名	オムロン イノベーション センター
6 / 2 7 (水)	木津川台保育所七夕交 流会	32 名 (19) 園児 23 名 職員 3 名	デイセンター
6 / 2 8 (木) ～ 2 9 (金)	宿泊旅行	6 名 (4)	レゴランド・ 鉄道博物館
8 / 3 (金)	日帰り旅行	2 名 (3)	吉本新喜劇
8 / 6 (月)・ 7 (月)・3 0 (木)	班外出 (パン) 3 G に分 かれて実施	10 名 (6)	外食
9 / 8 (土)	デイセンター交流会	24 名 (20) 家族 12 名	デイセンター
9 / 2 8 (金)	班外出 (織)	7 名 (4)	インスタントラ ーメン記念館
1 0 / 3 (水)	日帰り旅行	2 名 (2)	ひらかたパーク
1 0 / 5 (金)	日帰り旅行	5 名 (6)	ニフレル
1 0 / 1 2 (金)・ 1 / 1 1 (金)	班外出 (紙漉)	7 名 (6)	奈良・京都鉄道 博物館
1 0 / 1 9 (金)	班外出 (デイサービス)	5 名 (5)	木津ふおとん
1 0 / 3 1 (水)	日帰り旅行	1 名 (2)	高の原イオン
1 1 / 2 (金)	日帰り旅行	4 名 (3)	京都市水族館
1 1 / 2 1 (水)	日帰り旅行	5 名 (4)	天王寺動物園
1 1 / 2 9 (木) ～ 3 0 (金)	宿泊旅行	3 名 (2)	城崎マリン ワールド
1 1 / 2 9 (木)	班外出 (パン)	9 名 (6)	大阪梅田
1 2 / 1 0 (月)	同志社国際学院キャロ リング	12 名 (5) 生徒 60 名 教師 6 名	相楽 デイセンター
1 2 / 1 3 (木) ～ 1 4 (金)	宿泊旅行	3 名 (3)	ナガシマ スパーランド

日 程	行事名・内容	参加利用者数 () は スタッフ数	場 所
1 2 / 1 9 (水)	木津川台保育園 クリスマス会	31 名 (19) 園児 22 名 職員 3 名	相楽 デイセンター
1 / 3 0 (水)	利用者の会 (新年会)	AM13 名 (6) PM16 名 (9)	相楽 デイセンター
2 / 1 6 (金)	京 都 山 城 ロ ー タ リ ー クラブ交流会	3 名 (1)	いづみホール
3 / 2 5 (月)	班外出 (紙漉)	8 名 (5)	アピタ けいはんな
3 / 2 6 (火)	利用者の会 (お疲れ様 会)	4 名 (1)	アルプラザ木津
3 / 2 7 (水)	班外出 (花工芸)	9 名 (5)	ここらく

(5) その他

調理、お菓子作り、散歩、カラオケ、スノーズレン

・・・各グループで実施。

絵画 (週 1 回)、音楽プログラム (月 2 回)、書道 (月 1 回)、医療マッサー
ジ (週 1 回)

・・・希望者が参加

3 研修・出張

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
4 / 6 (金)	浄瑠璃寺打合せ 他 5/7 (月) ・ 12/7 (金)	浄瑠璃寺	1 名
4 / 1 3 (金)	同志社国際学院パンチケッ ト販売 他 16 (月) ・ 18 (水) ・ 20 (金) ・ 23 (月)	同志社国際学院	合計 10 名
4 / 2 3 (月)	自立支援協議会、 他 4/24 (火) ・ 5/16 (木) ・ 6/19 (火) ・ 27 (水) ・ 8/1 (水) ・ 6 (月) ・ 7 (火) ・ 22 (水) ・ 10/9 (火) ・ 15 (月) ・ 23 (火) ・ 11/7 (水) ・ 12 (月) ・ 13 (火) ・ 21 (水) ・ 12/4 (月) ・ 20 (水) ・ 1/30 (火) ・ 2/14 (水) ・ 3/13 (火) ・ 22 (木)	山城南保健所・木津 川市役所	1 名
5 / 2 6 (土)	同志社国際学院きづな祭販 売	同志社国際学院	2 名

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
6 / 1 (金)	法人内研修「熱中症」	相楽デイセンター	13名
6 / 5 (火)	マナー研修	ハートピア京都	1名
6 / 5 (火)	ほっとはあと会議	いづみ福祉会	1名
6 / 7 (木)	浄瑠璃寺「行者まつり」販売	浄瑠璃寺	2名・利用者2名
6 / 8 (金)	障害福祉サービス事業者等 集団指導	京都府	1名
6 / 9 (土)	法人内研修「救急法」	かしのき苑	9名
6 / 20 (水)	食品衛生法研修	京田辺市コミュニティホール	1名
6 / 20 (水)	利用者ケース会議、他 9 / 26 (水)・12 / 5 (水)・ 3 / 6 (水)	そらーる三山木	1～2名
7 / 2 (月)	強度行動障害基礎研修、他 7/5 (木)・10/9 (火)～10 (木)	京都府社協	1名
7 / 3 (火)	相談支援現任研修、他 8/8 (水)・9 (木)	京都テルサ	1名
7 / 10 (火)	精華町地域福祉計画策定委 員会、他 3/25 (月)	精華町	1名
7 / 14 (土)	自閉症 e サービス、他 8/4 (土)	彦根勤労福祉会館	1名
7 / 18 (水)	精華町障害児者ふれあいの つどい実行委員会、他 26 (木)・8/7 (火)・17 (金)・ 9/12 (水)・10/17 (水)・ 12/25 (火)	かしのき苑	1名
7 / 19 (木)	法人内研修「身体拘束」	相楽作業所	3名
7 / 20 (金)	強度行動障害基礎研修、他 7/31 (金)・8/28 (火)・ 9/12 (水)	南山城学園	1名
7 / 20 (金)	ほっとはあとワークショップ (縫製)	おーぷんせさみ	1名・利用者6名
7 / 27 (金)	ほっとはあとワークショップ (染)	ワーキングセンター いづみ	1名・利用者3名

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
8 / 2 (木)	ほっとはあとワークショップ (陶芸)	かしのき苑	2名・利用者3名
8 / 18 (土)	木津川台夏祭り販売	中央公園	1名
8 / 31 (金)	相談従事者初任者研修 (演習)、他 9/13 (木)・14 (金)	京都テルサ	1名
9 / 11 (火)	利用者施設見学	柊の里	1名
9 / 11 (火)	ほっとはあと会議	相楽デイセンター	1名
9 / 19 (水)	自立支援協議会見学	福知山学園	1名
9 / 21 (金)	法人内研修「自閉症」	相楽作業所	5名
10 / 24 (日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	むくのきセンター	1名
11 / 10 (土)	同志社国際学院販売	同志社国際学院	2名
11 / 12 (月)	強度行動障害実践演習、他 11/13 (火)・14 (水)	京都府社協	1名
11 / 14 (水)	ほっとはあとワークショップ (苗植え)	おーぷんせさみ	1名 利用者2名
11 / 16 (金)	就職フェア	精華町役場	1名
11 / 22 (木)	法人研修「嚙下」	相楽デイセンター	7名
11 / 25 (日)	大石順教尼法要	文教短大	1名
11 / 26 (月)	安全管理者講習	京都府公安委員会	1名
11 / 28 (水)	自立支援協議会「障害者の多様な生活のあり方を考える勉強会」	相楽会館	1名
12 / 6 (木)	ケース記録書き方研修	ハートピア京都	1名
12 / 17 (月)	福祉有償運送運転協力者講習会 他 1/18 (火)	移動送迎支援活動情報センター	1名
12 / 19 (水)	法人研修「新採職員」	相楽作業所	1名
1 / 15 (火)	自立支援協議会見学	西陣会	1名
1 / 21 (月)	利用者ケース会議	とちのき	2名
2 / 21 (木)	苦情相談研修会	キャンパスプラザ京都	1名
3 / 2 (土)	福祉有償運送運転協力者講習会 他 3/3 (日)	移動送迎支援活動情報センター	1名
3 / 13 (水)	法人研修「新採職員」	相楽作業所	1名
3 / 23 (土)	介護職員初任者研修、他 3/30 (土)	未来ケア	1名

4 見学・実習

(1) 見学・来訪（合計 37 件）

企業・・・18 件

学校関係・・・12 件

施設・・・5 件

その他・・・2 件

(2) 実習（合計 8 人）

職場体験・・・4 人

保育士実習・・・4 人

5 所内事故・苦情

前年度比で、総件数は減少したが、服薬ミスなどは増加した。引き続き安全意識の向上が必要である。苦情も増加した。

内 容		件 数	備 考
事故等	車両接触	3 件	車両接触
	怪我	5 件	転倒等
	個人情報	2 件	実績記録間違い渡し、旅行 残金渡し忘れ等
	感染症	3 件	インフルエンザ感染等
	服薬ミス	4 件	飲み忘れ、保管期間経過
	その他	9 件	カギの掛け忘れ、行方不明 など
苦情	支援について	10 件	文書の受け渡し、送迎、班 構成等

6 その他

日 程	内 容	備 考
4 / 6 (金)	支援程度区分認定聞き取り、他 11 (水)・5/1 (金)・7 (月)・ 7/17 (火)・18 (水)・24 (火)・ 30 (月)・8/1 (水)・20 (月)・ 9/3 (月)・7 (金)・10 (月)・ 11 (火)・27 (木) 10/4 (木)・ 5 (金)・10 (水)・30 (火)・ 11/1 (木)・6 (火)・12/3 (月)・ 12/21 (金)・1/8 (火)・2/4 (月)・2/15 (金) 計 37 名	精華町一役場職員 木津川市一支援センタ ー聞き取り

日 程	内 容	備 考
4 / 1 7 (火)	利用者の会、他 5/22 (火) ・ 7/23 (月) ・10/17 (水) ・12/20 (木) ・1/30 (水) ・3/26 (火)	
4 / 1 7 (火)	相楽中部消防本部立ち入り検 査	
4 / 1 5 (日)	きらりデイセンター使用、他 5/20 (日) ・6/17 (日) ・7/15 (日) ・8/19 (日) ・9/16 (日) 10/21 (日) ・11/18 (日) ・12/16 (日) ・1/20 (日) ・3/17 (日)	
4 / 2 2 (日)	自立生活体験学習、他 6/3 (日) ・7/1 (日) ・8/4 (土) ・ 8/19 (日) ・9/23 (日) ・11/24 (土) ・12/22 (土) ・1/6 (日) ・ 2/24 (日) ・3/10 (日)	
5 / 1 (火)	利用者面談、他 5/1 (火) ・8 (火) ・9 (水) ・11 (金) ・ 15 (火) ・21 (月) ・28 日 (月) ・ 30 (水) ・31 (木) ・6/5 (火) ・ 8 (金) ・11 (月) ・12 (火) ・ 21 (木) 合計 16 名	
5 / 1 0 (木)	親の会販売寄贈物品購入、パソ コン、ミシン、防災用マット・ 頭巾等	
5 / 1 6 (水)	法人理事会 5/16 は欠席、他 3/20 (水)	かしのき苑
5 / 1 8 (金)	前期個別支援計画書作成	
5 / 2 0 (日)	木津川市防災訓練	
5 / 2 4 (木)	親の会総会	
5 / 2 5 (金)	精華町特定健診・がん検診、他 30 (水) ・6/1 (金) ・4 (月) ・ 6 (水) ・8 (金) 合計 12 名	精華町役場
5 / 2 3 (水)	職員森本業務中に倒れる、27 (日) 死去	
6 / 4 (月)	利用者尾崎死去	
6 / 1 5 (金)	利用者ボーナス、他 12/14 (金)	

日 程	内 容	備 考
7 / 6 (金)	大雨洪水警報発令の為休所	
7 / 23 (月)	利用者H氏精華町障害者計画 会議出席(フォロー支援センタ ー)、他 10/15 (月)・11/27 (火)・1/21 (月)・3/25 (月)	精華町
9 / 5 (水)	健康診断女性 16 名参加、他 13 (木) 1 名	精華町国保病院
9 / 11 (火)	健康診断男性 17 名参加、他 28 (金) 1 名	精華町国保病院
9 / 4 (火)	台風の為休所	
9 / 10 (月)	大雨洪水警報発令の為 2 時間 遅れで開所	
9 / 26 (水)	防災訓練利用者 35 名職員 20 名 参加、 他 3/18 (月) 利用者 38 名職員 23 名	デイセンター
10 / 16 (火)	精華町乳がん検診 3 名参加	
10 / 28 (日)	デイセンターWAXがけ	フジハラ美装
10 / 30 (火)	後期個別支援計画書作成	
10 / 31 (水)	山城南保健所厨房検査	
11 / 2 (金) ～ 4 (日)	エアコン工事	三浦産業
11 / 3 (土)	玄関シェード工事	キール
11 / 13 (火)	インフルエンザ予防接種利用 者 26 名職員 15 名	精華町国保病院来所
12 / 13 (木)	親の会チョコレート仕分け、他 14 (金)・18 (火)	
12 / 17 (月)	B 肝ワクチン、他 19 (水)・ 21 (金)・1/28 (月)・30 (水)・ 3/25 (月)・27 (水)・28 (木)・ 29 (金) 合計 14 名	精華町国保病院
1 / 24 (木)	山城南保健所パン班検査	
2 / 5 (火)	親の会チョコレート仕分け、他 6 (水)・7 (木)	
2 / 21 (木) ～ 3 / 8 (金)	利用者 1 名入院、抜釘手術	
3 / 8 (金)	親の会チョコレート仕分け	
3 / 10 (日)	貯水槽清掃	オリックスファシリテ ィーズ

社会福祉法人相楽福祉会
平成30年度 精華地域活動センター「心」事業報告（案）

これまで小規模事業所であるが故に利用者間の関係に変化が少なかったが、支援学校卒業生の受け入れを行ったことにより人間関係に広がり生まれた。職員にとっても新規利用者に対して新たな作業設定を行う、支援学校との連携を深めるなど、事業所全体の活性化につながったように感じる。

地域の企業から声を掛けて頂き、新規開拓が難しい中新たな販売場所を増やすことができた。利用者にとって販売に行くことは楽しみの一つであり、また周囲の状況を見て自主的に動く等やりがいを感じられる場でもあるので、つながりを大切にしていきたい。

介護サービスを利用している高齢の利用者に大きな変化があり、安心・安全に過ごして頂けるように介護保険事業所や病院と積極的に連携をとった。今後も日々の変化を見逃さず、必要な機関と連携していきたい。

<計画に即した評価>

1 基本方針

（１）利用者がより充実した日々を過ごせるようにニーズに基づいた個別支援計画を作成し、他事業所と連携しながら日中活動の支援を行う。

利用者に聞き取りをした上で作成した支援計画を基に支援を行った。10月と年度末にモニタリングを行い、利用者の変化や状況を把握するとともに支援内容の見直しをした。特にグループホーム入居者に関しては、日中活動と生活場面どちらもスムーズに過ごせるようグループホームと積極的に連携をとった。

（２）人権に配慮した支援が行えているのか意識的に見直し、より良い支援を目指す。

会議やチェックシートを使い、日々の支援を見直す機会を作った。意識的に見直す機会を設けることで、自分の支援が不適切になっていないか振り返ることができたのではないかな。

（３）地域での活動を大切に住民の方々との交流を積極的に行う。

声を掛けて頂いたイベントや販売会に出来る限り参加することで、地域の住民の方々や地域の企業で働く方と関わる機会をもつことができた。地域のイベントに参加されていたお客様から普段はどこで売っているのか質問を受けることがあり、新しいお客様につながる可能性を感じた。

（４）地域のニーズに対応し、無理のない範囲で新規利用者を受け入れる。

今年度は支援学校卒業生1名の受け入れを行ったが、新しい関係性が生まれ人間関係の広がりを感じた。今後も可能な範囲で受け入れを行っていきたい。

2 事業内容

(1) 「わーく相楽」と一体的に生活介護事業を運営する。

各事業所において喫茶やパン販売、革作業や下請け作業、清掃業務を行い、一体的に運営することができた。

(2) 人権を尊重し、個別支援計画に基づいた支援を行う。

- ・利用者の思いを丁寧に聞き取り、ニーズに沿った支援計画を作成する。
- ・支援内容については必要に応じて日々のミーティングで話し合うとともに、年度の間で見直しを行う。
- ・支援マニュアルを年度末に更新し、個々の利用者の変化に対応していく。
- ・新規利用者へのアセスメントを丁寧に行い、支援学校からの移行がスムーズにできるようにする。

各利用者にアセスメントをした上で個別支援計画を作成し、年に2回モニタリングを行った。支援マニュアルに関しては、年度末に各個人の状況や必要な支援の情報共有、情報交換を行い次年度につなげる見直しを行った。新規利用者へのアセスメントはより丁寧に行い、必要に応じて支援学校との連携をとった。

(3) 喫茶こころの運営。

- ・「喫茶こころ」の運営を通して、また地域の行事やイベントに積極的に参加することで地域の方々と交流を深める。
- ・パンの種類や販売先を見直し、作業収入と支出のバランスを取りながら収入の安定を図る。
- ・年齢や体力、体調や障害の状況に応じた作業を設定する

新規開拓が難しい中地域の企業から声を掛けて頂き、販売場所の提供を受けることができた。販売の回数が増え利用者のモチベーションアップにつながった。配置的に厳しく売上が少ない販売先については見直しを行った。販売後は毎回振り返りを行い、パンの種類や個数等次の販売に活かすことができた。

これまで出来る限り値上げせずに販売してきたが、原材料高騰を踏まえて価格の見直しを行い来年度は一部値上げする予定である。

日々変化する利用者の状況に合わせた作業設定を行うとともに、特に新規利用者や高齢の利用者が取り組みやすい作業を検討した。

(4) 安心、安全な環境を整える。

- ・環境や作業内容・行程を見直し、安心安全に作業ができるにしていける。
- ・年齢の高い方が体力を維持しながら健康に安心して過ごせるように、他法人事業所との連携を丁寧に行っていく。

怪我につながる作業もあるため、作業内容の見直しを行うとともに見守りや声掛けを丁寧に行った。

どの利用者也安心して過ごせるように、階段を滑りにくくする等環境の見直しを行った。また、高齢の利用者に関しては介護保険事業所と情報の共有を行った。

(5) 職員間の情報共有、連絡、連携を確実にし安定した業務を行う。

- ・ミーティングや職員会議の時間を活用し、情報の共有や積極的な意見交換を行う。
- ・研修に積極的に参加して支援の向上に努め、また研修報告の共有を行う。

毎夕のミーティングや月1回、必要に応じて月2回会議を行い意見交換を行った。また、職員が少人数である利点を生かし、情報の共有を迅速に行うことができた。グループホームの利用者については、グループホーム職員と情報共有や意見交換を行いより良い支援につなげた。

外部研修に積極的に参加することはできなかった。今後は支援の質の向上のため研修にできる限り参加していきたい。

<資料>

1 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

- ・利用者数 9名（男2名・女7名）
- ・平均年齢 約45.88歳
- ・平均障害程度区分 約4.44

2 活動内容

・喫茶こころ

毎週火曜日～土曜日に営業（第1土曜日、祝日は休業）

5月、11月、2月にかしのき苑、または地域の行事に伴い臨時開所（基本的に翌火曜日に代休）

・配達

平均 14.6回／月

- 配達先
- ・精華町役場職員
 - ・地域の小学校（学童保育）
 - ・地域の保育所職員 など

・販売

日 程	販売先	備 考
毎月1回	南山城支援学校	
毎月1回	精華町庁舎販売	
毎月1回	むくのきセンター	
毎月2回	発達支援センターすてっぷ	
毎土曜日	J A精華町農産物直売所（J A祝園）	J Aへ委託
5／21(月)	ツアー・オブ・ジャパン京都	職員2名参加
5／27(日)	ふれあいまつり	臨時開所 利用者8名・職員4名
6／16(土)	ハート販売会（けいはんな映画劇場）	利用者2名・職員1名
6／17(日)	文化フェスティバル	職員2名

7 / 1 4 (土)	ひかりだい保育所夏祭り	利用者 6 名・職員 3 名
日 程	販売先	備 考
7 / 2 4 (火)	夏季地域学校	注文
8 / 1 8 (土)	精華台一丁目夏祭り	利用者 5 名・職員 3 名
8 / 2 5 (土)	祝園西一丁目夏祭り	職員 2 名
9 / 8 (土)	敬老会	利用者 2 名・職員 1 名
9 / 2 9 (土)	ハート販売会 (けいはんな映画劇場)	利用者 2 名・職員 1 名
1 0 / 2 0 (土)	女性センター祭り	納品のみ
1 0 / 2 8 (日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	注文／職員 2 名
1 1 / 4 (日)	精華マラソン	職員 2 名
1 1 / 1 8 (日)	せいか祭り	臨時開所 利用者 7 名・職員 3 名参加
1 2 / 2 (日)	チャリティーフェスティバル	職員 2 名参加
1 2 / 6 (木)	ハート販売会 (けいはんな映画劇場)	利用者 2 名・職員 1 名
1 2 / 2 5 (火)	シルバー人材センター クリスマス会	利用者 2 名・職員 1 名
1 / 1 0 (木)	シルバー人材センター 新年会	利用者 2 名・職員 1 名参加
1 / 1 1 (金)	ハート販売会 (けいはんな映画劇場)	利用者 2 名・職員 1 名参加
1 / 1 2 (土)	ハート販売会 (けいはんな映画劇場)	利用者 3 名・職員 1 名参加
2 / 1 (金)	精華町人権シネマサロン	利用者 3 名・職員 1 名参加
2 / 2 (土)	精華町人権シネマサロン	利用者 3 名・職員 1 名参加
2 / 3 (日)	あんしん見守りシンポジウム	臨時開所
2 / 3 (日)	鹿背山婦人会	注文
2 / 2 6 (火)	日本電産	利用者 3 名・職員 2 名参加
3 / 1 5 (金)	ハート販売会 (けいはんな映画劇場)	利用者 2 名・職員 1 名参加
3 / 1 6 (土)	ハート販売会 (けいはんな映画劇場)	利用者 2 名・職員 1 名参加
3 / 2 6 (火)	日本電産	利用者 3 名・職員 2 名参加

・その他

絵画（毎水曜日、作業所のプログラムに参加）、

パソコン・ししゅう

ウォーキング・カラオケ・調理・外食など（基本的に第 1 土曜日）

体重測定（月 1 回）

3 ボランティア活動

日 程	ボランティアグループ	利用者数
第 3 木曜日	古布裁断ボランティアこっとな	1 名(4、1 0～3 月) 2 名(5～9 月)

4 行事等

日程	行事名・内容	利用者数（職員数）
4 / 7(土)	花見	6名（2名）
5 / 30(水)	精華町がん検診（女性）	1名
6 / 1(金)	精華町特定健診・がん検診（女性）	2名
6 / 6(水)	精華町特定健診・がん検診（男性）	2名
7 / 17(火)	木津川市がん検診（女性）	2名
8 / 4(土)	調理	7名（3名）
9 / 6(木)	健診（女性）	4名（1名）
10 / 5(金)	日帰り旅行（天王寺動物園・串カツ）	9名（5名）
10 / 16(火)	精華町乳がん検診	1名
10 / 28(日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	3名（1名）
11 / 6(火)	インフルエンザ予防接種	5名（3名）
11 / 13(火)	インフルエンザ予防接種	1名
12 / 11(火)	歯科検診	8名
1 / 4(金)	新年会（外食）	8名（3名）
1 / 5(土)	初詣	6名（2名）
2 / 5(火)	歯科指導	8名
3 / 2(土)	外食	7名（3名）

5 研修・出張

日程	研修名・内容	会場	参加数
6 / 8(金)	京都府集団指導	文化パルク城陽	1名
6 / 9(土)	法人内研修（「救急講習」について）	かしのき苑	1名
6 / 12(火)	法人内研修（「熱中症予防研修会」）	相楽作業所	1名
7 / 2(月) 7 / 5(木)	京都府強度行動障害支援者養成研修 （基礎研修）	京都テルサ	1名
7 / 19(木)	法人内研修 （「身体拘束と虐待」について）	相楽作業所	3名
7 / 20(金)	施設間交流ワークショップ （人形作り）	おーぷんせさみ	利用者1名
7 / 27(金)	施設間交流ワークショップ （草木染め）	ワーキングセンター いづみ	利用者1名
8 / 2(木)	施設間交流ワークショップ（陶芸）	かしのき苑	利用者2名
8 / 8(水)	食品衛生責任者実務講習会	加茂文化センター	1名
9 / 21(金)	法人内研修（「発達障害のある人への 支援」について）	相楽作業所	2名

日 程	研修名・内容	会 場	参加数
1 1 / 1 2 (月) ～ 1 4 (水)	京都府強度行動障害支援者養成研修 (実践研修)	京都テルサ	1 名
1 1 / 2 2 (金)	法人内研修 (「食事介助」について)	作業所	1 名
1 / 1 7 (木)	加工食品研修会	精華町農産物直 売所精華町支店	1 名
2 / 2 1 (木)	精華町地域障害者自立支援協議会 住民参加部会	精華町役場	利用者 1 名
3 / 1 (金)	ボランティアセンター運営委員会	かしのき苑	1 名
3 / 3 (日)	FUKUSHI 就職フェア	みやこめっせ	1 名

6 所内事故・苦情

内 容		件数
事故等		0 件
苦情		0 件

7 その他

日 程	内 容
5 / 2 2 (火)	南山城支援学校保護者見学
6 / 3 0 (土)	喫茶こころ害虫駆除
7 / 6 (金)	警報発令のため休所
7 / 7 (土)	警報発令のため休所
8 / 1 (水)	南山城支援学校卒業生アフターフォロー
8 / 3 (金)	ヴォクシー点検
8 / 7 (火) ～ 9 (木)	南山城支援学校生実習 1 名
8 / 2 3 (木)	警報発令のため一部利用者個別送迎
9 / 4 (火)	警報発令のため休所
9 / 1 8 (火)	防災訓練 (かしのき苑と合同)
1 0 / 2 2 (月)	喫茶ワックスがけ
1 1 / 2 7 (火) ～ 2 9 (木)	南山城支援学校生実習 1 名
1 2 / 5 (水)	かしのき苑法定点検のため停電 (1 時間)
1 2 / 2 8 (金)	喫茶こころ害虫駆除
3 / 6 (水)	消防訓練 (かしのき苑と合同)

社会福祉法人相楽福祉会
平成30年度 わーく相楽（ていすと）事業報告（案）

今年度はエコ・クリーンとの合築、木津川市から精華町への引っ越し、新利用者2名の受け入れと4月当初から大きな変化があった。通所場所の変更や新たな利用者の増加でこれまでいた利用者にも混乱があるのではと想定していたが、事前の予想よりも穏やかにスタートを切る事ができた。職員も1名増え4名体勢で支援に当たる事ができたが、下請け作業量の減少や利用者の作業スピードが上り準備が追い付かない等、作業確保に苦慮した一年でもあった。また利用者の高齢化・重度化によりこれまで以上に健康管理や介護面の比重が大きくなってきた。

＜計画に即した評価＞

1 基本方針

1 利用者一人ひとりのニーズに基づき個別支援計画を作成し、個性を大切にしたり日中支援を行う。
--

5月に個別支援計画を作成、10月に見直しを行った。支援計画をもとに日々の反省会の中で作業内容の検討や日中の過ごし方を話し合った。

話し合いの中で事業所の目指す方向性や、作業内容の検討、利用者への対応、言葉遣いに対して話しあう機会を設けた。

2 作業活動を通じて経験と出会いを大切に、地域とのより広い関係の構築を目指す
--

作業を中心にした事業所作りを行った。12月に宇治市で革製品の販売会を行いこれまで以上に大きな反応があった。

3 年齢及び障害の状況に合わせた安心・安全な支援を行い、利用者の人権を尊重する。
--

障害の重度化、高齢化が課題となる中、どの利用者も通院の機会が増えた。

4 新規利用者の受け入れをすすめると共に、合理的な事業所合築に向けて検討を行う

4月よりエコ・クリーンと合築し精華町への引っ越しを行った。送迎内容の変更や新たなルール作りなど事前に準備をしておいた事が功を奏して、大きな混乱もなくスタートを切る事ができた。

2 事業内容

(1) わーく相楽としてエコ・クリーンと一体的に生活介護事業を運営する。

エコ・クリーン相楽と共に、「わーく相楽」として一体的に事業運営を行う。

(2) 日中活動において、利用者一人ひとりの個別支援計画に基づき支援する。

- ・個別支援計画の定期的な見直しを行い、細やかな意見の聞き取りと、より充実した支援を行う。
- ・毎日のケース検討により、支援の経過や課題等をスタッフ間で共有する。

5月に個別支援計画の作成、10月に見直し、3月に支援計画の総括を行った。アセスメントや支援計画を元に、毎日の反省会においてスタッフ間で話し合い、支援の方向性を検討した。また利用者の持つ課題によっては、他事業所も交えてのケース会議を開催した。

(3) 作業活動を主体に、やりがいや責任感が持てる仕事を提供する。

- ・質の高い革製品作りを行い、地域や委託店舗と連携した活動を目指す。
- ・個々に合わせた下請け作業を請け負い、継続して提供する。

革製品については前年度に続いて利用者の技術が上がり、注文や売り上げも上がっている。夏冬とボーナスを支給する事ができた。外部からの注文が増えた一方、製品の作り直しや注文間違いなども増えている。今後クレームに発展しないよう慎重な仕事が求められる。また前年からの課題で材料費の増大や作業目的のブレも見られる。スタッフ間の意識を統一する必要があると感じられる。

(4) 安心・安全に務めた事業所運営を行う

- ・日々の情報共有の中からヒヤリハット事例の収集とその対策に取り組む

大きな事故や怪我はなかったが、1月にインフルエンザが流行。前年も休所する事態があった為、感染予防の対策を学んでいく必要がある。

<資料>

1 利用者の状況

男性 7名 女性 5名 合計 12名（職員4名）

平均障害支援区分 4,16

平均年齢 42,9 歳

2 日中活動内容

(1) 革作業

革製品の製作。（財布、キーケース など）

木津川市、精華町、宇治市、枚方市 等の委託店舗で販売。

(2) 下請け作業（新栄工業）

「ノンリーク金具（ウレタンシール貼り）」「紙管（筒入れ）」

「からみ（輪っか）」の各種作業を実施した。

(3) 委託店舗先 訪問（納品）

店舗によるが1～3ヶ月毎に、製品の入れ替えを行った。

(4) その他

カラオケ（3ヶ月に1回）、絵画（作業所プログラム毎週）、
木津育英会とお菓子づくり（年1回）、歯科検診、歯科指導
体重測定（月1回）、入浴支援（一部利用者に週1回程度）

3 行事関係

日 時	内 容	場 所
4月4日	イチゴ狩り	華やぎ観光農園
4月13日	お花見	鳥谷公園
5月23日	カラオケ外出	レインボー
6月26日	避難訓練	所内
7月10日	調理活動	かしのき苑
9月21日	カラオケ外出	レインボー
10月12日	一日外出①	ひらかたパーク
10月19日	体操レクリエーション	所内
11月2日	一日外出②	ひらかたパーク
12月7日	避難訓練	所内
12月14～24日	革製品販売会	スーベニアショップ
1月11日	新年会	レストラン里
1月21日	木津育英会お菓子作り	木津保健所
2月15日	調理実習	かしのき苑
3月22日	カラオケ外出	レインボー

4 事故、苦情

内 容	件数
事故	1 件
苦情	2 件

【服薬ミス】10月に昼食後の服薬を忘れる

【苦情】4月、利用者宅より受給者証カバーに傷が付いていると苦情
納品した革バッグに傷があると、委託店より苦情

5 見学、実習 受け入れ

日 時	内 容
4月16日	精華町役場 見学
4月17日	南山城支援学校 教諭 見学
4月25日	精華町福祉課・町議会 見学
6月27日	新卒利用者2名アフターフォロー 担当教諭来所
7月5日	南山城支援学校 保護者 見学
9月11日	ならやま福祉会 見学
10月	新卒利用者 保護者と面談
10月31日	南山城支援学校 保護者 見学
11月9日	南山城支援学校 生徒 実習
1月23日	南山城支援学校 生徒 実習
2月13日	南山城支援学校 生徒 実習

4月に移転、合築し新たな建物になった事もあり地域からの見学者が多かった。特にまだ受け入れの余地があるという事で支援学校保護者から受け入れのニーズが多く集まった。

6 その他・会議、研修等

日 時	内 容
6 月 1 日	法人内研修（熱中症）
6 月 9 日	法人内研修（救急法）
6 月 12 日	法人内研修（熱中症）
7 月 19 日	法人内研修（虐待）
7、8 月	相談支援従事者研修 3 日間
9 月 21 日	法人内研修（自閉症）
10 月 24 日	F 氏ケア会議①
10 月 22 日	法人内研修（食事介助）
12 月 12 日	F 氏ケア会議②
3 月 2～3 日	安全運転講習会 受講

主に法人内の研修に参加。外部の研修に参加できる機会を増やしていきたい。

- ・避難（防災）訓練 2 回実施
- 利用者健診（内科） 1 回実施
- 歯科検診（指導）

- ・6 月 18 日 地震の影響により 10 時開所
- ・7 月 6 日 大雨警報の為休所
- ・9 月 4 日 大雨警報の為休所
- ・9 月 11 日 大雨警報の為 11 時開所

社会福祉法人相楽福祉会

平成30年度 わーく相楽（エコ・クリーン相楽）事業報告（案）

昨年度から準備をすすめ、四月より新しい場所で「クリエイティブスペース ていすと」とともに「わーく相楽」として再出発することとなった。違う環境になる事や関わる人が増えることで生じるトラブル等を懸念していたが、利用者にもスムーズに受け入れ馴染んでもらえたようだった。ただ五月に環境整備の不十分さから所内で事故があり利用者に怪我を負わせてしまうという事があった。すぐに改善しその後は何も起こっていないが引き続き危険個所がないか注意深く気を配っていく必要がある。

作業面においては年間を通して計画的に作業設定及び実施を行い、行政との業務委託契約については滞ることなく履行する事ができた。除草作業については台風等、悪天候のため作業できない日が続き大幅に遅延したが、作業設定の調整を行う事で年度内には終わることができた。昨年度より検討を続けてきた作業方法の改善について、年度末に再度利用者とともに話し合い詳細まで決定し、次年度より実行するに至った。

昨年度より体力面を考慮し屋内作業を行う事業所を併用していた利用者も今年度はさらに配慮が必要となり、屋内作業の日にちを増やさざるを得なくなった。「いつまでも働きたい」と希望する利用者が多いのが現状だが、意欲はあるが体力面で継続した作業参加が難しいというケースも今後増えてくると思われ、利用者の体力面への配慮、精神面へのフォローの両方をどうバランスよく支援していくかが課題である。

<計画に即した評価>

1. 基本方針

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 法令を遵守し、利用者、家族、地域から信頼を得る施設運営を行う。(2) 利用者の人権が尊重され、自己実現に向けて主体的に過ごすことができるよう支援を行う。(3) 「ともに働く」なかでも個別のニーズの掘り起こしとそのニーズに応える支援を行う。 |
|---|

利用者一人ひとりのアセスメントに基づき支援計画を作成し支援を行った。中間時期には本人と計画の見直しを行い、また日々の関わりの中からニーズの確認、それを速やかに支援に反映させるよう努めた。作業においては車両移動時には安全運転に努め、計画的に作業を設定、実施し地域の方に気持ちよく利用して頂ける公園管理を心掛けた。草刈り機等の機器を使用の際には利用者及び地域の方の安全を重視し支援にあたった。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(4) 新規通所事業所「わーく相楽」における公園清掃・管理部門として、エコ・クリーン相楽の運営を行う。 |
|---|

新しい場所で再出発となった。違う環境に当初は戸惑いを感じつつも、利用者には

日々過ごす中で少しずつ慣れていってもらえる事ができた。

2. 事業内容

- (1) 地域の公園や社会教育施設の清掃、管理を主な作業内容とし、わーく相楽における「生活介護」、「就労継続支援 B 型」事業を実施する。
- ・行政との業務委託契約履行のため、計画的に作業設定を行い実施する。

夏期の草刈り作業が今年度も台風等、悪天候のため遅延傾向であったが、作業設定の調整等を行う事で契約内容通り履行することができた。

- ・作業内容については、利用者一人ひとりの状況に配慮して設定する。

草刈作業において機械類の扱いを希望されない利用者にはトイレ清掃中心の作業プログラムに参加してもらおう等、利用者の希望、状況に合わせて作業設定への配慮を行った。

- ・新規利用者の受け入れに対応すべく収入増につながる試みを行っていく。
- ・利用者の高齢化を視野に入れ、新たな作業開拓の可能性や作業内容の見直しを行っていく。

新規作業については職員間で検討を行ったが具体的に収入増に繋がる取り組みはできなかった。高齢化に向けての作業の見直しについても行う事ができなかった。三月後半に次年度利用開始に向けて 1 名の実習を受け入れた。

- (2) 行事や休日レクリエーションを利用者とともに計画し実施する。
- ・利用者間での話し合いや利用者が外部研修等に参加する機会も積極的に作り、主体性を伸ばしていけるよう支援を行う。

行事やレクリエーションの企画については、日中活動の時間内で時間を設け話し合いのうえ決定した。年度末には一年間の作業の振り返りを行い、作業の注意点、改善点を出し合い次年度に繋げるよう話し合った。他法人が企画する障害者が働く職場の見学会や講演等の情報提供を行い職員と数名の利用者が参加した。

- (3) 利用者のニーズに基づき個別支援計画を作成し、中間評価を行いながら支援する。
- ・日ごろの利用者との関わりから、タイムリーに必要な支援が行えるよう努める。
 - ・会議等で日々の利用者の状況を職員間で共有し、支援内容の振り返りや支援方法の調整を図り人権が守られた支援を行う。

利用者からの聞き取りに基づき個別支援計画を作成し、会議の場で検討を行い職員間で共有した。中間時期には再度個別に聞き取りを行い計画の調整を、年度末には年間の評価を行い次年度に繋げるようにした。日々の関わりから利用者の状況を知るとともに反省会の中で共有し速やかに支援内容に反映するよう努めた。

- ・法人内研修や外部研修の参加など職員の資質向上に努める。

法人内研修については、それぞれの職員が対象の講義に参加した。外部研修に

については勤務体制を調整し資格取得のための講習会への参加や振替休日を取得してもらい休日実施の講習会にも参加してもらった。

(4) 安心・安全な環境確保に努める。

- ・職員の安全管理に関する意識を高めるとともに、施設内外の安全について常時点検を行っていく。
- ・居心地の良い場を提供できるよう雰囲気作りに努める。

五月、所内洗い場で利用者が転倒し足を骨折するといった事故が起こった。環境への配慮不足から生じた出来事だった。以後事故は無かったが、危険個所の有無の確認等、継続して気を配る必要がある。日々の作業において、移動の際の車両運転を含め安全には留意し作業を行った。日々の反省会等の時間を利用し実施作業内容の共有、修正、引継ぎ等行い効率よく作業遂行ができるよう努めた。機器のメンテナンス、補修、修理依頼などを作業に支障がないよう適宜実施した。所内においても必要物品はその都度購入した。作業用車両1台が老朽化のため使用が難しくなり新しい車両に乗り換えた。

- ・わーく相楽の運営が速やかに軌道に乗れるよう「ていすと」と連携しながら検討を行っていく。

「ていすと」と日々意見交換、情報共有を行いながら、利用者の支援にあたった。大きな問題は起こらず利用者間の関係も良好に経過してもらった。

(5) 法人内での連絡と報告を徹底し、連携した施設運営を行う。

日々法人内各事業所と連携し、特別な事項がある場合には報告・連絡・相談を行うよう努めた。

<資料>

1. 利用者の状況 (※平成31年度3月時)

(1) 利用者数 9名

生活介護 7名(男性7名) ※平均障害程度区分: 3.7

就労継続支援B型 2名(男性2名)

(2) 平均年齢 50歳

2. 活動内容

(1) 作業

- ・精華町(建設課) 山田川駅前交通広場等維持管理業務委託

場 所	内 容
山田川駅前交通広場	ごみ拾い 除草 散水 等
祝園駅西側公衆便所	トイレ清掃 ごみ拾い
鳥谷公園	トイレ清掃 ごみ拾い 散水 等

池谷公園	トイレ清掃 ごみ拾い 散水 等
畑の前公園遺跡の杜	トイレ清掃 ごみ拾い 散水 等

・精華町(建設課) 池谷公園他除草業務委託

場 所	内 容
鳥谷公園	除草 塵埃収集 処分 等
池谷公園	除草 塵埃収集 処分 等

・精華町（体育協会）維持管理業務

場 所	内 容
打越台グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い グラウンド管理棟清掃 グラウンドベンチ清掃 等

・木津川市（教育委員会）社会体育施設清掃等委託業務

場 所	内 容
兜谷グラウンド周辺	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
木津グラウンド周辺	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 整地 等
木津川台グラウンド	ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
梅美台テニスコート	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 等
赤田川グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
加茂体育館	トイレ清掃 除草 等
加茂グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 等
山城コミュニティ運動広場	トイレ清掃 ごみ拾い 等
木津川市中央体育館	除草
城址公園	(社会体育係業務委託) トイレ清掃 ごみ拾い 等
	(文化財保護室業務委託) トイレ清掃 ごみ拾い 等

- ・相楽福祉会 ゴミ回収・生ゴミ回収(6～9月) 除草 等
- ・精華町障害児者育成会 古紙回収
- ・リサイクル業務(空き缶回収)
- ・廃油石鹼作り
- ・地域の方へ落ち葉運搬

※5月より「燃やすごみ」の有料化に伴い、法人内向けのごみ処理費用の単価調整を行った。

(2)レクリエーション

日 程	内 容	参加利用者数 ※(スタッフ数)	備 考
4 / 1 3 (金)	花見	8 名(3 名)	鳥谷公園
5 / 1 9 (土)	ボウリングとカラオケ	7 名(2 名)	新田辺駅
6 / 2 3 (土)	奈良健康ランド	5 名(2 名)	
7 / 2 1 (土)	京都水族館	6 名(2 名)	
8 / 2 5 (土)	京都鉄道博物館	7 名(2 名)	
9 / 2 9 (土)	ボウリングとカラオケ	7 名(2 名)	新田辺駅
1 1 / 2 4 (土)	京都太秦映画村	8 名(2 名)	
1 2 / 1 5 (土)	平城旧跡歴史館	8 名(2 名)	
1 / 1 1 (金)	新年会	8 名(3 名)	外食
2 / 2 5 (月)	木下大サーカス	7 名(3 名)	大阪

※新年会について、外食し事業所に戻った後、「ていすと」と合同で催しものを企画し実施した。

(3)行事・利用者研修等

日 程	内 容	参加利用者数 ※(スタッフ数)	備 考
6 / 8 (金)	精華町特定健診	3 名	精華町役場
9 / 1 1 (火) 1 3 (木)	健康診断	5 名(2 名)	精華病院
1 0 / 2 4 (水) ~ 2 6 (金)	天橋立・城崎旅行	4 名(2 名)	
1 1 / 6 (火) 1 3 (火)	インフルエンザ予防接種	4 名(3 名)	
1 1 / 1 4 (水) ~ 1 6 (金)	名古屋旅行	3 名(2 名)	
1 1 / 3 0 (金)	アンガーマネジメント 怒らない体操講座	1 名(1 名)	
1 2 / 1 1 (火)	歯科検診	7 名	相楽作業所
1 2 / 2 8 (金)	相楽作業所餅つき手伝い	7 名(3 名)	浄瑠璃寺
1 / 2 3 (水)	障がい者が働く場の見学会	5 名(1 名)	(株)王将ハートフル

2 / 5 (火)	歯科指導	7 名	相楽作業所
2 / 8 (金)	働く場の集い	(1 名)	講話、ビジネスマナーについて 木津川市東部交流会館
3 / 8 (金)	スマホ・ケータイ安全教室	1 名(1 名)	木津川市東部交流会館

※「働く場の集い」について、当日利用者が欠勤したため、職員のみで参加した。

3. 職員研修・出張

日 程	内 容	会 場	参加者数
5 / 24、31 6 / 7、14、21、 28、7 / 5、12、 19、26、8 / 2、 9、16、23、30、 9 / 6※全て木曜日	介護者初任者研修	未来ケアカレッジ京橋教室	1 名
6 / 1 (金)、12 (火)	法人内研修「熱中症」	相楽作業所 デイセンター	2 名
6 / 8 (金)	集団指導	文化パーク城陽	1 名
6 / 9 (土)	法人内研修「救急講習」	かしのき苑	1 名
6 / 26 (金)	自立支援協議会就労支援部会	山城南保健所	1 名
7 / 19 (木)	法人内研修「身体拘束と虐待」	相楽作業所	2 名
9 / 21 (金)	法人内研修「自閉症スペクトラム」	相楽作業所	2 名
10 / 2 (火)	自立支援協議会就労支援部会	山城南保健所	1 名
11 / 21 (水)	法人内研修「食事介助」	デイセンター	3 名
12 / 1 (土)、 2 (日)	福祉有償運送運転協力者養成講習会	宇治市役所	1 名
3 / 2 (土)、 3 (日)	福祉有償運送運転協力者養成講習会	木津川市社会福祉協議会山城支所	1 名
1 / 9 (水)	精華町委託業務(除草)監査	精華町役場	1 名
3 / 11 (月)	「B 型がやるべき就労支援とは」講座	ハートピア京都	1 名
3 / 29 (金)	精華町委託業務(清掃)監査	精華町役場	1 名

4. 所内事故・苦情

内 容			件数
事故等 苦 情	怪我	事業所手洗い場の床面が濡れていた為滑り転倒。左足脛骨、腓骨を骨折。	1 件
	行方不明	休日レクリエーションの移動の際、利用者1名を残して電車に乗車してしまう。	1 件

5. その他

日 程	内 容	備 考
6 / 1 8 (月)	地震のため10時開所	
6 / 2 6 (火)	避難訓練	わーく相楽全員
7 / 5 (木)	南山城支援学校保護者見学	わーく相楽
7 / 6 (金)、7 (土)、 9 / 4 (火)	警報のため休所	
9 / 1 1 (火)	警報のため11時開所	
9 / 1 8 (火)	消防立入検査	わーく相楽
1 2 / 7 (金)	避難訓練	わーく相楽全員
1 2 / 2 6 (水)	事務所東側サッシ(エコ)不具合調整	
1 / 1 8 (金)	旧倉庫引き渡し	
1 / 3 1 (木)	消防機器点検	(株)ベルテック

社会福祉法人相楽福祉会
平成30年度 サービスセンター相楽事業報告（案）

当年度は、緊急による長期間の短期入所利用はなかったが、緊急・逼迫性が高いニーズを優先して短期入所と日中一時支援の提供を行った。通院支援は、月平均90件程度の利用があり、同一日に利用が集中しないよう調整を行った。ガイドヘルプ（行動援護・移動支援）は、グループホーム入居者を中心に可能な限り対応した。

短期入所やガイドヘルプについては、ニーズに合った支援が行えるよう、他法人のサービス紹介も含めて引き続き調整が必要である。

安全対策等については、台風21号によりスレート屋根の一部が剥がれ落下し破損する等、20年が経過し建物の外壁と屋根の老朽化が進行しているため、次年度以降に補修工事を早急に行う必要がある。また、事故を防止するため危険箇所への迅速な対応と老朽化した設備に対して計画的に修繕を行っていく。

＜計画に即した評価＞

1 各種サービス

- ・フェイスシートや支援計画の更新を行い個々の利用者にあった支援内容を検討する。
 - ・必要に応じて家族、関係機関、他事業所と相談しながらサービス内容の見直しを行う。
 - ・少しでも多くのニーズに対応できるようスタッフ確保に努める。
- なお、新規利用者へのサービス提供は可能な範囲で行っていく。

サービス内容については、必要に応じて通所施設職員や家族と相談しながら検討、見直しを行った。

当年度も相楽作業所、相楽デイセンターの各施設長を交えてサービス調整会議を毎月実施し、緊急性が高いケースの情報共有や効率的な人員配置の調整を行った。夜間・休日のサービスニーズに対応していくためには、アルバイトスタッフの募集を継続する必要がある。

2 支援の質の向上

- ・利用者に対して人権に配慮した支援ができているか常に自ら振り返り、また、不適切な支援に対して指摘し合える職員関係を築く。
- ・職員間の報告・連絡・相談、情報の共有を確実にし、個々の利用者に応じた支援を行う。
- ・利用者の変化に確実に気付き、設備や支援内容の見直しを随時行う。
- ・法人内部および外部研修に計画的に参加し、職員の資質向上を図る。
- ・ミーティングや個別の話し合いの場を積極的に作り、支援の質的向上に努める。

他事業所と連携して情報を共有し、業務日誌等を用いて服薬や留意事項について配置スタッフへの引継ぎを行った。

職員体制上の困難さから研修への参加機会が少なかったが、可能な限り研修に参加し支援の質の向上に努める。

日々の支援の中で気付いたことはその都度話し合い、支援内容の改善と共通理解を深めることができた。

3 事業所機能の充実

- ・ 関係機関、他事業所との連絡を密に行い情報の共有と連携をはかる。
- ・ 年2回の防災訓練を計画的に実施する。
- ・ 薬、個人情報、貴重品等を厳重に管理し、紛失や間違いが起こらないように努める。
- ・ ドライブレコーダーを導入し、「安全運転」の意識向上とリスク回避に役立てる。
- ・ 老朽化し始めている建物等の修繕を計画的に行い、安心・安全で快適な環境を整備していく。

必要に応じて他事業所と連絡を密に行い、情報を共有し連携をはかった。

サービス利用時に持参された薬や貴重品、受給者証、その他個人情報に関わる書類等を鍵のかかる書庫に保管し、細心の注意を払って取り扱うことで、紛失が起こるのを防ぐことができた。

ドライブレコーダーを取り付けることで、より安全運転を心掛けられるようになった。

大便器洗浄管取替、エアコン室外機故障による部品交換、勝手口ドアのレバーハンドル・錠前交換、水道管の水漏れ修理等必要に応じて修繕を行った。建物外壁や屋根等の大規模修繕は、計画的に進めていく必要がある。

<資料>

1 利用者の状況（登録利用者数）

- | | |
|-------------|-----|
| ◎相楽福祉会通所利用者 | 96名 |
| ◎上記以外 | 5名 |

2 事業内容

- ① 居宅介護（身体介護・家事援助・通院等介助）
- ② 行動援護
- ③ 重度訪問介護
- ④ 短期入所
- ⑤ 日中一時支援
- ⑥ 移動支援

⑦ 福祉有償運送

《参考》サービス提供の状況（件数）

サービス内容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
居宅介護（身体介護）	146	146	141	146	150	138
居宅介護（家事援助）	3	1	2	2	1	3
居宅介護（通院等介助）	92	86	78	89	94	78
行動援護（通院）	9	6	4	4	9	1
行動援護	52	57	55	37	44	51
重度訪問介護（通院・ガイド）	1	0	2	2	0	3
短期入所	31	28	32	31	32	27
日中一時支援	162	157	159	148	151	130
移動支援	42	41	39	43	44	43
福祉有償運送	195	169	165	161	176	144

サービス内容	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
居宅介護（身体介護）	151	137	139	141	137	146	1718
居宅介護（家事援助）	2	2	2	1	3	3	25
居宅介護（通院等介助）	105	88	86	86	79	84	1045
行動援護（通院）	8	7	4	3	3	7	65
行動援護	47	46	62	51	51	52	605
重度訪問介護（通院・ガイド）	2	1	1	3	0	2	17
短期入所	31	33	32	30	29	29	365
日中一時支援	153	138	125	123	142	145	1733
移動支援	33	37	46	44	37	43	492
福祉有償運送	193	163	171	169	156	166	2028

※短期入所…1泊2日を1件とカウント

3 研修・出張

日程	研修名・内容	会場	参加
6/8（金）	京都府集団指導	文化パーク城陽	1 名
6/9（土）	法人研修「救急法」	かしのき苑	1 名
7/3（火）	相談支援従事者現任研修	京都テルサ	1 名
7/19（木）	法人研修「身体拘束と虐待」	相楽作業所	1 名
8/8(水) 9(木)	相談支援従事者現任研修	京都テルサ	1 名

4 事故・苦情

内 容		件 数
事故	服薬ミス	0
	怪我	0
	車両事故	0
	情報連絡	1
	感染症	0
苦情		0

服薬ミスは無かったが、日中一時支援利用中に服薬内容について確認が不十分で服薬ミスにつながりかねないヒヤリハットが1件あった。

情報連絡は、通院等介助中ヘルパー2名が医師からの指示を互いに共有出来ていなかったことにより起こった。

5 その他

日程	内容	備考
4/16 (月)	消防立入検査	相楽中部消防組合
6/6 (水)	リビング勝手口 レバーハンドル錠前交換	キール株式会社
8/10(金)	エアコン室外機点検 インバータ異常	リビングメンテサービス 北東
8/22(水)	エアコン室外機部品交換	リビングメンテサービス 北東
9/26(水)	2F 階段非常照明の内部電池 交換	ベルテック
10/24(水)	防災訓練	
10/28(日)	ワックスがけ	フジハラ美装
11/2(金)	水道メーター取替	木津川市上下水道部 水道業務課
12/20(木)	男子身障トイレ 大便器洗浄管取替工事	林設備工業
1/28(月)	水道メーターボックス内 水漏れによる水圧低下 圧着ソケット取付	喜多商店
2/12(火)	消防用設備点検	ベルテック
3/7(木)	ほっとハウス見学（来訪）	
3/10(日)	貯水槽清掃	オリックスファシリティズ
3/11(月)	消火器 5 本新品に交換	
3/20(水)	防災訓練	

社会福祉法人相楽福祉会

平成30年度 グループホームサポートセンター「樹葉」 事業報告（案）

グループホーム資源を拡大できない状況が続いているが、人員体制増強があった。課題となっている夜間宿泊・休日日中支援における通所等他事業所職員への依存状態は非常勤夜間支援員の入職などにより年々改善しているものの、引き続きマンパワーの確保に取り組む必要がある。

安心、安全の確保において、重点課題とした服薬支援事故は2件で前年度比8件減少したがヒヤリハット事例が13件あり服薬機会の多いグループホーム運営では対策の継続が必要である。服薬用ゼリーを導入した入居者もいた。また、当年度は国内各地で災害が発生し、水などの備蓄を始めた。

生活支援においては、高齢期入居者の介護保険デイサービスの利用頻度が増加した。加齢に伴う身体機能等低下による介助場面の増加や、中年期に入った入居者が腰痛を発症させるなどあり、健康維持プログラムの必要性を感じる。

当年度は制度改正や3年毎の障害支援区分認定、障害福祉サービス事業所指定の更新および京都府による実地指導を受けた。障害支援区分は入居者のうち4分の1の区分が上昇した。実地指導では支援内容やきめ細やかなマニュアル配慮事項について評価されたが、重要事項説明書等の掲示や個別支援計画のモニタリング様式について指摘を受け、改善した。

<計画に即した評価>

1 生活支援

- ・一人ひとりのニーズに沿った支援計画に基づいて支援し、必要に応じ見直しを行う。
- ・介助手順・マニュアルや生活歴既往歴等のデータを充実させ、良質で均質な支援を継続する。
- ・高齢入居者に必要な介護や支援体制・住まいの形態について検討する。
- ・他事業者のサービスも活用し、介護や余暇支援の充実をはかる。

個別支援計画に基づいて支援を行なった。制度改正により、行動面での配慮が必要な入居者に対する支援計画シートや個別支援計画の内容精査、自傷行為に対する安全配慮が身体拘束に該当するか等の対応を行った。介護保険サービスを利用している入居者については、ケアマネジャーや介護保険事業所等と随時会議にて情報共有を行った。てんかん発作のある入居者について、発作対応マニュアルの改訂版を作成した。なお、インフルエンザは入居者1名が感染したものの、住居内の感染拡大は防止できた（前年度は、2住居で入居者4名、職員6名）。ノロウイルスに感染した入居者はいなかった。

当年度は全住居合同のレクリエーションを計画したが台風のため中止

となった。個人単位のガイドヘルプサービスを利用して休日支援を行なった。他法人事業所のガイドヘルプサービスも活用できるよう調整を行なった。介護保険対象入居者の中では土曜日や日曜日に介護保険デイサービスを利用した人もいた。

2 安心、安全の確保

- ・服薬支援・介助において、事故やミスが無いよう重点的に取り組む。
- ・危険物、薬品、貴重品、個人情報等を厳重に管理し、間違いが起こらない環境整備に努める。
- ・支援方法や構造等における危険箇所を随時確認し改善する。
- ・年2回の避難訓練等を行い火事や災害時の危機対応に備える。また、非常災害対策計画の策定について検討をはじめめる。

重点課題とした服薬支援事故は2件で前年度比8件減少したがヒヤリハット事例が13件あった。休日や夜間、医療機関に対応してもらえない際に調剤薬局の緊急窓口を活用して指示を仰ぐことができた。かみこま相朋舎で他住居からの服薬確認連絡を受ける態勢、入居者の処方内容をリアルタイムで一元的に把握する体制は継続している。

従前から加齢に伴う身体機能等低下による転倒、新たに介助を要する場面が増加している。結果的に大きな疾病ではなかったが、深夜に救急搬送を依頼したことが2件あった。

3 支援の質の向上

- ・職種に関わらず支援に携わる者全てが互いの支援の在り方について指摘し意見を交わすことによって、入居者を尊重したよりよい支援を行う。
- ・計画的に研修・見学機会を設け、職員の人権意識、資質向上をはかる。

当年度も他法人グループホームの見学を実施できなかった。外部研修では日本グループホーム学会全国大会へ2名派遣するなどした。

事業所、住居ごとの会議を開催し生活支援員・世話人各々の視点で入居者支援についての気づきや改善内容を共有した。その中で、数年前と比べ生活における行動や習慣に変化が見られる入居者がいることが明らかになった。

- ・夜勤や変形労働時間を活用し効率的な人員配置に努めるとともに、夜間休日の人員確保をすすめ、労働過重を改善する。

年度当初女性常勤職員が増え、はぜ相朋舎が常勤2名から3名の体制になったが年度途中で通所事業所へ異動となった。年度末近くには男性常勤職員が増え、ほうその相朋舎が常勤2名から3名の体制になった。かみこま相朋舎の夜間支援員配置を週2～3回程度3名から2名に減員する体制を継続し、通所施設の応援も活用する形態が定着した。また、新たな夜間支援アルバイトが入職した一方、従来の夜間支援アルバイト

が退職するなど、全体的に状況は改善しているが、男性支援員の状況は一部悪化している。

宿泊スタッフのほか朝夕の繁忙時間帯にはフォロー体制を敷いており、非常勤職員や変形労働時間を活用したものの他事業所への依存度も高い。今後も介護度の高まりから現状よりも手厚い人員配置を要することが予想される。

<資料>

1 利用者・住居の状況（平成31年3月31日現在）

	かみこま 相朋舎	ほうその 相朋舎	はぜ 相朋舎
所在地	木津川市	精華町	木津川市
開設年	2005年	2014年	2013年
入居者数	男2、女3	男9	女9
平均年齢	50.0歳	54.1歳	54.7歳
障害支援区分(平均)	5.6 (5.7)	5.2 (5.1)	5.7 (5.0)
夜間支援体制	男2、女1	男2	女1

1名の高齢期入居者が逝去された。当年度は障害支援区分の再認定があり、全体的に区分が上昇した。()内は、平成29年度末の平均値。要介護認定を受けている入居者は計4名。

2 レクリエーション

前年度は企画を立て好きなコースに参加していただく形態をとったが、当年度は5年に1度のグループホーム入居者全体でのレクリエーションを立案し、けいはんなプラザでの昼食パーティーを9月30日に予定した。木津川市ボランティアのマジックサークルによるマジックショーなどを企画したものの、当日台風24号のため残念ながら中止とした。なお、令和元年度は従来の企画別レクリエーションの実施を計画している。

3 研修

法人内研修および外部研修に参加した。法人内研修は業務上参加できない傾向が従来からあるが可能な限り参加した。外部研修では、前年度参加できなかった日本グループホーム学会全国大会へ2名派遣したほか、近畿地区グループホーム職員研修会等へ随時派遣した。当年度も他法人グループホームの視察は実施できなかった。次年度以降も非常勤職員を含め学ぶ機会を増やし、資質向上をはかりたい。

4 事故・苦情

服薬ミスは前年度増加し当年度は重点課題として取り組んだ。結果、件数は減少したがヒヤリハットが前年比7件増加の13件であった。服薬ヒヤリハットは薬ケースから取り出す際の日付間違いと、飲みこぼしが目立った。転倒は医療機関受診をしなかった軽いものは件数に挙げていないが、肋骨骨折した転倒があった。入居者家族からの苦情は連絡ノートの記載内容・入浴時間について、入居者からの苦情は他入居者の早朝の物音について。各入居者の様々な不満・苦情は他にも多々あると思われる。その他事故は、血圧計を入居者の足に落下させた、食事で箸の先端約2cm折れて誤飲したと思われること、金銭管理連絡の不足で二重払い状態になったこと。

服薬ミス	2件
転倒（大きなもの）	1件
その他事故	3件
車両事故（物損）	1件
対外トラブル	0件
苦情（入居者家族より）	1件
苦情（入居者より）	1件

●服薬事故年次推移

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
10件	8件	4件	6件	10件	2件

5 支援体制の状況（夜間・休日等）

通所等他事業所常勤職員のひと月あたりの配置回数は、男女ともに減少傾向にある。支援体制の工夫やアルバイト増加が要因である。徐々に安定した傾向がみられるが、休日に通所等他事業所常勤職員を配置する割合は高い。また、グループホーム担当職員の負担も大きいと感じる。

以下、状況の年次推移。

●GHでの外部スタッフ依存率の年次推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
男性	59.9%	45.3%	41.9%	36.9%
女性	41.0%	28.8%	22.8%	20.3%

グループホームでの通所等他事業所常勤職員への依存率の推移である。平成28年度に大幅に依存率が低下した。平成27年度下半期に夜間手当を増額した結果、夜間支援非常勤職員の採用（応募）が増加したこと、支援体制の工夫が奏効し、年々その傾向が継続している。

●通所等他事業所常勤職員の GH・短期入所等の稼働状況の年次推移（男性）

	H 2 6 年度	H 2 7 年度	H 2 8 年度	H 2 9 年度	H 3 0 年度
月平均回数	4.1 回	4.3 回	3.8 回	4.0 回	3.1 回
休日率	46.0 %	50.9 %	55.8 %	52.1 %	52.5 %

●通所等他事業所常勤職員の GH・短期入所等の稼働状況の年次推移（女性）

	H 2 6 年度	H 2 7 年度	H 2 8 年度	H 2 9 年度	H 3 0 年度
月平均回数	5.4 回	5.3 回	3.7 回	3.0 回	2.4 回
休日率	37.8 %	40.7 %	46.4 %	47.4 %	42.6 %

法人常勤職員がグループホームや短期入所等での稼働状況を職員 1 人あたりで算出したものである。傾向を正確に把握できるようグループホームおよびサービスセンター職員、新任職員や子育て中のママ職員を除いている。

職員によってばらつきがあるため、あくまで平均であるが、年々回数は減少している。特に女性は夜間支援アルバイトの増加によりその傾向が大きい。

なお、男女ともに休日の稼働割合は高い。